SEGA SAMMY
GROUP

Everything in entertainment

SEGA SAMMY GROUP CSR Report 2008

世界中の人びとに夢と感動を

株式会社セガとサミー株式会社は、世界的な総合エンタテインメント企業としての強固な地位確立と、企業価値の最大化を目的として2004 年10 月、経営資源を統合し、セガサミーグループとして新たな一歩を踏み出しました。
私たちは、ステークホルダーとの信頼関係の向上により、グループと社会のさらなる持続的発展を目指しています。
今年も、昨年の創刊号に続き、セガサミーグループのCSRレポート2008を皆さまにお届けします。

セガサミーホールディングス株式会社

Sammy
サミー株式会社

SEGA®
株式会社セガ

■セガサミーグループ　会社一覧

●国内

株式会社セガ
サミー株式会社
株式会社サミーネットワークス
株式会社セガトイズ
タイヨーエレック株式会社
株式会社トムス･エンタテインメント
株式会社アイティコミュニケーションズ
株式会社ウェーブマスター
株式会社オアシスパーク
株式会社銀座
株式会社銀座販売
株式会社サミーシステムズ
株式会社サミーデザイン
株式会社サミーレンタルサービス
セガサミーインベストメント･アンド･パートナーズ株式会社
セガサミーゴルフエンタテインメント株式会社
株式会社セガトイズ･プラス
株式会社セガ ビーリンク
株式会社セガ･ロジスティクスサービス
株式会社タイヨー
株式会社ダーツライブ
株式会社テレコム･アニメーションフィルム
株式会社トムス･フォト
株式会社トムス･ミュージック
日本マルチメディアサービス株式会社
株式会社メディア･トラスト
株式会社リアラス
株式会社レムアート
株式会社ロデオ

●海外

Sega Holdings U.S.A., Inc.
Sega Amusements U.S.A., Inc.
Sega Amusement Works, LLC
Sega Enterprises, Inc. (U.S.A.)
Sega Entertainment U.S.A., Inc.
Sega of America, Inc.
Secret Level, Inc.
Sega Holdings Europe Ltd.
Sega Europe Ltd.
Sega Amusements Europe Ltd.
Sega Benelux B.V.
Sega France S.A.S.
Sega Germany G.m.b.H
Sega Publishing Europe Ltd.
Sports Interactive Ltd.
The Creative Assembly International Ltd.
The Creative Assembly Ltd.
Sega (Shanghai) Software Co.,Ltd.
世嘉(上海)電子機械商貿有限公司
上海新世界世嘉遊芸有限公司
Sega Amusements Taiwan Ltd.
Sega Australia Pty Ltd.
SEGA TOYS (HK) CO., LTD.
TMS MUSIC (UK) LIMITED
TMS MUSIC (HK) LIMITED

（2008年7月1日現在）

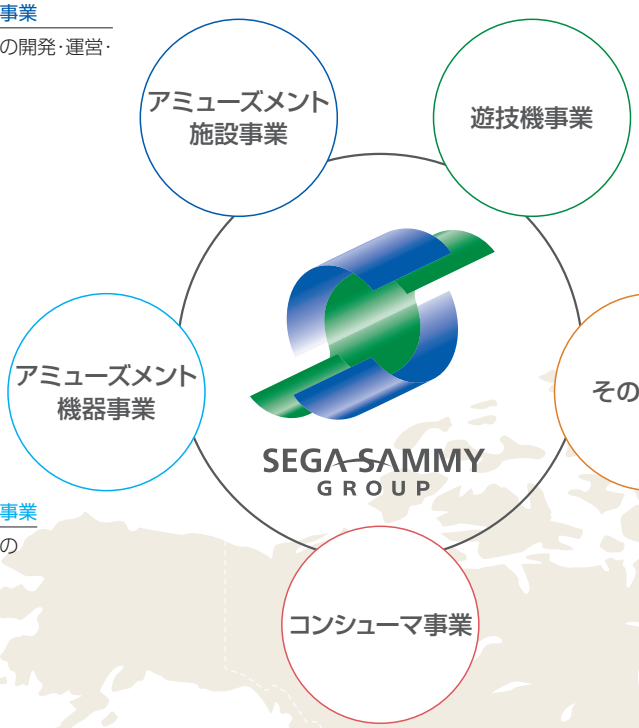
会社概要

セガサミーホールディングス株式会社
〒105-0021
東京都港区東新橋一丁目９番２号
汐留住友ビル 21 階
●総合エンタテインメント企業グループの持株会社として、グループの経営管理およびそれに附帯する業務

株式会社セガ
〒144-8531
東京都大田区羽田一丁目２番 12 号
●アミューズメント機器の開発・製造・販売
アミューズメント施設の開発・運営
ゲームソフトウェアの開発・販売

サミー株式会社
〒170-6029
東京都豊島区東池袋三丁目１番１号
サンシャイン 60 29 階
●パチンコ・パチスロ遊技機の開発・製造・販売

事業構成



アミューズメント施設事業
アミューズメント施設の開発･運営･レンタル・保守業務

遊技機事業
パチンコ遊技機およびパチスロ遊技機の開発･製造・販売、周辺機器の開発･製造・販売・メンテナンス、遊技場の店舗設計等

アミューズメント機器事業
アミューズメント機器の開発・製造・販売

その他事業
情報通信サービス、その他

コンシューマ事業
ゲームソフトウェアの開発・販売、玩具等の開発・製造・販売、携帯電話等を通じたエンタテインメントコンテンツの企画販売、アニメーション映画の企画・制作・販売

財　務

セガサミーホールディングス株式会社(グループ連結)

(単位:百万円)

	2006年3月期 通期	2007年3月期 通期	2008年3月期 通期
売上高	553,240	528,238	458,977
経常利益	119,500	81,287	▲8,224
総資産	522,914	549,940	469,642
自己資本比率(%)	60.6	61.5	55.3
社員数(名)	6,416	7,734	7,665

※財務情報の詳細については、アニュアルレポートまたはホールディングス WEB サイトをご覧ください。
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

グループ経営理念

私たちは、世界中のあらゆる人々に夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献します。

グループ CSR 憲章

グループ CSR 憲章制定にあたり

私たちは企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）の遂行を経営の重要課題と考えています。
社会に生き続ける企業市民として、CSR の精神に鑑み、すべての法令・社会規範を遵守し、ステークホルダーとより良い関係を築くことで、健全な経営の実現と社会的な責任を果たせるものと考えます。そのための業務執行の指針として、ここにグループ CSR 憲章を掲げます。

With Customers

私たちは、いつの時代においても、お客さまとともに歩みながら、
夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し続けます。

With Partners

私たちは、取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、
ともに夢と感動溢れるエンタテインメントの提供を目指します。

With Shareholders and Investors

私たちは、グローバルな視点をもって事業を展開し、継続的な成長・企業価値の最大化を目指します。
そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通し、透明な経営を図り、株主・社会の期待に応えます。

With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、
芸術・スポーツなどの文化の発展支援、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

編集方針

セガサミーグループは、第2号となるCSR レポートを発行しました。様々なステークホルダーの皆さまに「わかりやすく読みやすい」誌面づくりを目指し、昨年の創刊号の方針や構成を踏襲し、下記の通り編集しました。

1. セガサミーグループをご理解いただくため、事業活動の概要を紹介。
2. 特記すべき各社の活動トピックスについて巻頭に特集。
3. CSR憲章を軸とし、ステークホルダーごとに具体的な活動を紹介。
4. 客観性を担保するため、第三者によるご意見を掲載。

主に特集ページについては、写真を多く掲載し、活動のイメージがより伝わるよう工夫しました。

また、総ページ数を抑えるとともに、冊子での発行を避け、WEBサイトに掲載することで環境面にも配慮しました。

セガサミーグループは、今後もCSR精神を経営に反映させるため、ステークホルダーの皆さまとご意見を交換し合いながら、より良い企業市民となるべく、逐次改善を図っていきたいと考えています。添付のアンケートを含め皆さまの忌憚なきご意見をお待ちしています。

CONTENTS

トップメッセージ 4
セガサミーグループの事業概要 6
特集 1　企業市民としての活動 セガ :「セガの森」が、長野県南佐久郡南相木村に誕生 8
特集 2　企業市民としての活動 サミー : 遊技機を通じて、サミーが貢献できること 10
特集 3　CSR 活動の展開 : グループ一体となった CSR 活動の展開に向けて 12
コーポレートガバナンス 14
CSR マネジメント 16

ステークホルダーとのかかわり

お客さまとともに
CS（顧客満足）向上に関して 20
製品・サービスに関する情報の開示 / マーケティング 22
営業への取り組み / 個人情報保護の取り組み 23

取引先とともに
公平な選定 24
公正な関係 25

株主・投資家とともに
正確・公平・迅速な情報開示 26
利益還元とインサイダー取引防止 27

従業員とともに
セガ キャリア形成 / ダイバーシティ / 安全・衛生 28
サミー キャリア形成 / ワークライフバランス / ダイバーシティ / 安全・衛生 30

社会とともに（社会貢献）
スポーツ・芸術・文化活動支援 32
社会貢献活動の支援 / 社会的責任（寄付活動） 34
事業性を伴う社会貢献活動 / グループ会社での取り組み 35

（環境）
環境に関する法規の遵守 / 資源・エネルギーの効率的活用 36
環境教育の実施 / 環境保全活動の支援 39

第三者意見 40

参考にしたガイドライン

《GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン 2006」》
※ : GRI（Global Reporting Initiative）=グローバル・レポーティング・イニシアチブ。全世界で適用可能な、持続可能性報告のガイドラインを策定し、その普及に取り組む非営利組織

アニュアルレポートとの関連性

基本的にアニュアルレポートでは財務情報を中心に報告し、CSR レポートでは非財務情報を中心に報告しています。CSR レポートに掲載されていない財務情報の詳細については、アニュアルレポートまたはホールディングス WEB サイトをご覧ください。
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

対象範囲

期間 : 2007 年 4 月 1 日～ 2008 年 3 月 31 日
※ : 一部には発行日直近の報告や、2007 年度以前の活動も含めています
組織 : セガサミーホールディングス株式会社、株式会社セガ、サミー株式会社
※ : 一部にはグループ会社の活動を掲載しています
発行 : 2008 年 8 月（次回発行予定 : 2009 年 9 月）

会社名の表記の定義

セガサミーホールディングス株式会社 : ホールディングス
株式会社セガ : セガ
サミー株式会社 : サミー

免責事項

本レポートには、セガサミーグループの過去と現在の事実だけでなく、社会情勢に関する予想や発行日時点での経営計画や見通し、将来予測が含まれています。これらの予想・予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸条件の変化によって、将来の社会情勢や事業活動の結果が異なったものとなる可能性があります。読者の皆さまには、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

夢と感動をお届けするセガサミーグループは、求められていること、創造できることが何かを、問い続けます。

健全な経営が企業活動の基盤

セガサミーグループは2007年、初めての「CSRレポート」を発行し、「グループ経営理念」と、「グループCSR憲章」を軸に、これまで進めてきましたCSR活動を皆さまへご報告させていただきました。

前回のレポート発行から約1年が経過し、振り返りますと、社内外に向けて当グループのCSRの方針や活動内容を具体的にご報告いたしましたことは、社員一人ひとりが自らの行動を見つめ直す契機となったと感じております。また、社内に「グループCSR憲章」をはじめ「グループ行動規範」の浸透を深めていく中、ガバナンスとコンプライアンスを重視した健全な経営が、あらゆる企業活動の基盤であり、持続的な発展を遂げるために不可欠であると改めて認識いたしました。

持続可能な社会の実現に向けたセガサミーグループの使命

昨今、目まぐるしく変化する社会において、私どもが解決すべき課題は山積しています。また、個々人のライフスタイルも急速に変化し、人々の個性や価値観が多様化されてきています。その中で、セガサミーグループは社会から何を求められているのか、そして何ができるのか、私はそれを常に問い続けております。

私どもは、2004年10月に総合エンタテインメント企業グループとして新たにスタートを切りました。以来「世界中のあらゆる人々に夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し、豊かな社会の

実現と文化の創造に貢献する」ことを「グループ経営理念」とし、企業活動を展開してまいりました。中でも幼児から高齢者まであらゆる世代を対象にし、性別や国籍などを問わず、多種多様なエンタテインメントにかかわる商品・サービスを生み出し提供することは、当業界の中でも際立って特徴的であると自負しております。

エンタテインメントとは、楽しみであり、喜びであり、また商品やサービスを介して世界の人々がコミュニケーションを深めていくことは、文化の創造であると考えております。エンタテインメントがもたらす感動を世界中のあらゆる人々にお届けしたい。そして夢や感動に満ちた豊かな社会を次世代につなげていきたい。そのためにセガサミーグループができることを考え実行する。その繰り返しが、私どものCSR活動の本質であり、存在意義であると考えております。

とりわけ未来を担う次世代の健全な育成は、私どもにとって極めて重要な使命であると捉えております。事業を通じての活動のみならず、セガサミー野球部による少年野球教室をはじめとした様々なかかわりを通じて、一人でも多くの子どもたちが大きな夢を抱き未来を築いていけるよう、これからも力を尽くしてまいる所存です。

「人」を大切にする企業へ

私はCSR活動とは特別なことを行うわけではなく、役員をはじめ社員の一人ひとりが、各々の持ち場で社会の様々なニーズを的確に把握し、日々の業務に活かしていくことの積み重ねだと認識しております。これまでも社員はそれぞれの持ち場で、商品やサービスなどを通じて夢と感動をお届けしてまいりました。どのステークホルダーの皆さまとのかかわりも、すべて社員が担っており、社員の真摯な行動を通じてはじめて皆さまからの信頼を得られるものです。今後も積極的に社会との接点を持ちながら、今以上に信頼される努力をしていくことが重要です。

そのためにはまず、グループ内の強い信頼関係の確立と、連帯感の醸成が必要不可欠です。社員が自社に対する誇りと、社会から求められている仕事をしているという自信を持って働けるよう、社員を大切にする組織づくりに一層邁進していきたいと思っております。

ステークホルダーの皆さまとの対話を重ねて

セガサミーグループは今後もより良い企業市民として、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ねながら、自らの行動を見直し、改善を図ってまいる所存です。そして、グループの持続的価値向上を実現し、社会の持続的発展に貢献するための最大限の努力を続けてまいります。

今後とも、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長

里見 治

セガサミーグループの事業概要

セガサミーグループは、ユーザーの潜在的ニーズをいち早く捉え、“時代”の先を行く“面白さ”を創造することに常にチャレンジしています。そして、幼児から高齢者まですべての世代の方々が、“面白さ”を共有できる“空間”づくりを大切にしています。“世界中の人々に夢や感動に満ちたエンタテインメントを提供し、豊かな社会を未来の世代につなげていく”――セガサミーグループは、こうしたビジョンのもとに、総合エンタテインメント企業として、グループのシナジー効果を最大限に発揮し、事業を展開しています。“人々が「面白い」と感じる「遊びの創造」について原点に立ち返る”――セガサミーグループは、夢と感動に満ちたエンタテインメントを、これからも提供し続けていきます。

遊技機事業

当事業セグメントは、セガサミーグループのコアビジネスです。1982年にパチスロ遊技機市場へ参入し、1995年にパチンコ遊技機市場への本格参入を果たし、「新しいことはサミーから」をモットーに、常に他に先駆けた斬新な遊技性を備えた機械を市場に送り出すことで、市場の発展に貢献してきました。

革新的な機能や映像表現、ゲーム性を業界に先駆けて提供する開発力を強みとし、「サミー」「ロデオ」「銀座」「タイヨーエレック」の4ブランドによるマルチブランド戦略を推進するとともに、特に開発力の面では、グループの技術力や有力コンテンツを活用することなどを通じ、グループシナジーを創出しています。

「パチスロ北斗の拳2
ネクストゾーン将」
© 武論尊・原哲夫／NSP 1983,
©NSP 2007 版権許諾証
SAD-304 ©Sammy

「ぱちんこ CR 北斗の拳」
© 武論尊・原哲夫／NSP 1983,
©NSP 2007 版権許諾証 SAE-307
©Sammy

アミューズメント機器事業

当事業セグメントは、子会社であるセガにとって創業以来のコア事業です。セガは、国内の業務用アミューズメント機器市場において最も長い歴史を有する企業のひとつであり、その歴史は常に新たな「遊び」を創造してきたアミューズメント機器市場発展の歴史そのものといえます。1990年台後半から、家庭用ゲーム機との競合等により縮小傾向を辿ってきました。その中でセガはネットワーク対応のトレーディングカードゲームなど、家庭では経験できないアミューズメント施設ならではの「遊び」を投入することで、市場の活性化を促進してきました。

また、セガが業界をリードしてきた背景には、先端技術を「遊び」に取り入れる高い応用技術力の存在があることは言うまでもありません。

現在、国内市場におけるリーディングカンパニーとしての地位を維持し続けているセガは、トレーディングカードゲームや、ネットワーク対応のマルチサテライト型ビデオゲーム等で圧倒的な存在感を示しています。また、このような高付加価値製品群に加え、ファミリー・子ども向けにいたる幅広いプレイヤー層のニーズに応える製品群を提供できることも競争優位の1つです。

『ダービーオーナーズ
クラブ 2008
フィールザラッシュ』
©SEGA

『セガネットワーク対戦麻雀 MJ4』
©SEGA

アミューズメント施設事業

セガを中心とする当事業セグメントは、アミューズメント機器事業との連携により、ライトユーザーからコアユーザー向けにいたるまでの幅広い製品を自社のラインナップで取り揃えることを強みとしています。セガはアミューズメント施設の黎明期より当事業に参入し、体感ゲームなどの大型筐体で市場の発展をリードしました。

その後も新規性の高い製品を数々導入し、近年では「甲虫王者ムシキング」等を通じて、子どもやファミリー層、女性という新たな顧客層の開拓に成功しました。その結果、アミューズメント施設を人々にとって一番身近で手軽なエンタテインメントスペースへと進化させてきました。

現在では、「ジョイポリス」「セガ ワールド」「クラブ セガ」といった異なるコンセプトの施設展開で地域や立地条件ごとのニーズに応えています。

©SEGA

コンシューマ事業

当事業セグメントの中心をなすセガの家庭用ゲームソフト事業は、旺盛なチャンレンジスピリットのもと、常に革新的なゲームソフトを市場に送り出すことで、幅広いファンの支持を獲得してきました。とりわけ、2001年の家庭用ゲームのハード事業からの撤退後は、幅広いコンソール向けにソフトを提供するマルチプラットフォーム戦略を推進し、独自の地位を確立してきました。

また、経営統合後は海外開発スタジオへのM&A等を通じて、海外開発拠点の拡充を進めてきました。海外市場が著しい拡大を示す中、地域ごとの異なる嗜好に的確に応えることが可能なグローバル開発体制は大きな優位性となっています。

『龍が如く 見参!』
©SEGA

特集1　企業市民としての活動　セガ

「セガの森」が、長野県南佐久郡南相木村に誕生

地球環境保護への持続的な取り組み

立岩湖畔

立岩の滝

長野県「森林（もり）の里親促進事業」へ参加

セガでは、2007年度より、地球環境保護活動の一環として、森林の里親実現に向けた取り組みを推進しており、2008年4月1日に、長野県が仲介役となって進める「森林（もり）の里親促進事業※」の趣旨に賛同し、長野県南佐久郡南相木村との間で、村有林を含むすべての民有林約3,633haを対象とした、10年間の「森林の里親契約」を締結しました。

現在、長野県ではカーボンオフセットプラン（カーボンオフセットシステム構築事業）を立ち上げ、2008年度中に、木質バイオマスを利用したCO_2削減に貢献する活動を評価する仕組みを企業等と協同で構築し、地球温暖化防止のための実践的な取り組みを支援するとともに、森林資源の有効活用を通じて、健全な森林づくりを進めています。

そして、セガと南相木村との森林の里親契約により整備される森林によるCO_2吸収・固定量は、長野県により、2008年度中に評価・認証され、CO_2吸収証書が、セガに発行される予定です。

村の森林整備計画から、年間約1,200t～1,400tのCO_2が吸収・固定されるものと予想しており、森林の整備面積が、毎年一定量で増加する結果、5年後には、年間約6,000～7,000tのCO_2吸収・固定が実現するものと考えています。

セガでは、事業のCO_2削減とともに、グリーン電力証書や、森林の里親契約に基づくCO_2吸収量を、積み重ねることによって、セガが排出するCO_2の一定量をオフセットしたいと考えています。

※：「森林の里親促進事業」とは、長野県の仲介により、森林整備に意欲を持った地域と、社会貢献に意欲のある企業が連携して森林づくりを行う事業

「セガの森」森林の里親契約締結 記念式典を実施

森林の里親契約の締結を記念して、2008年5月24日に、現地の長野県南佐久郡南相木村にて、記念式典を実施しました。式典には、腰原長野県副知事・中島南相木村長をはじめ、長野県関係者、村役場職員・村民・南相木小学校児童が参加し、セガCSR委員会事務局長・曾我執行役員と、セガおよび、グループ会社のCSR委員会事務局社員を含め、約150名を超える参加者により、盛大に実施されました。

式典では、長野県、南相木村、セガとの間で、契約記念の木製プレートが交換され、記念植樹や、南相木小学校児童による「セガの森」アドプトサインの除幕が行われました。このアドプトサインには、南相木小学校全校児童50名の、「理想の森」と題した絵がプリントされ、「セガの森」の象徴として現地に建立されました。

アドプトサイン

植樹したレンゲツツジ

記念植樹

植樹風景

きのこの植菌体験

南相木小学校児童とともに

式典風景

このように、セガサミーグループでは、地球環境問題に真摯に取り組むため、環境対策を積極的に進めています。グループ全体に占めるCO_2排出量の多いセガにおいても環境対策を展開しており、事業に直結したアミューズメント機器のリサイクル、省エネ製品の開発、オフィスでのグリーン購入推進などに加え、排出するCO_2の一定量のオフセットを計画的に推進できるように取り組んでいます。

また、社員が地球環境問題に関心を持ち、理解を深めて、仕事やプライベートで環境に配慮した行動がとれるよう、グループで作成した「環境ハンドブック」をベースに、しっかりと学び行動するきっかけづくりにも取り組んでいます。(詳細:P36～39参照)

特集2　企業市民としての活動 サミー

遊技機を通じて、サミーが貢献できること

業界・市場・地域社会を「活性化」する活動

業界一体となった市場活性化への取り組み

すべてのユーザーが楽しめる遊技機の開発へ

メーカーという立場から、サミーがパチンコ・パチスロ業界の再活性化に最も貢献できるのが多様な遊技機の開発です。業界団体・組合では、「手軽に安く楽しく遊べるパチンコ・パチスロキャンペーン」を推進し、シンボルとして『遊パチ』マークを提供し、全メーカーに対して使用を呼びかけるなど、業界を挙げて取り組んでいます。

サミーでも射幸性が低く、小額でも数時間程度遊ぶことが可能な遊技機や、液晶などの複雑な仕様を無くしたことで高齢者の方などでも簡単に遊べる遊技機を生み出しています。また、パチスロにおいては、風適法施行規則等の改正※により、2007年6月以降、これまで市場導入されていた遊技機（4号機）よりも射幸性の低い遊技機（5号機）が主体となり、誰もが遊べる遊技機へと変革を遂げています。

「パチンコ CR OH! アニモー」
©Sammy

「パチスロ桃太郎電鉄」
©HUDSON SOFT　© さくまあきら
© 土居孝幸　©Sammy

遊パチ
手軽に安く遊べるパチンコ・パチスロ

全業界団体・組合が
推進している「遊パチ」

サミーは、「驚きと感動を創造する」、「新しいことはサミーから」をテーマに、数々の新機能を搭載した“業界初”を生み出してきたノウハウを活かし、ユーザーが心から楽しめる遊技機開発を行っていきます。

さらに、今後は既存ユーザーだけではなく、あらゆるユーザーから「遊んでみたい」と支持される遊技機の開発を進めるため、ユーザーニーズを反映した遊技機づくり、多様なジャンルの遊技機開発に取り組み、すべてのユーザーにとって斬新かつ面白い遊技機の提供を目指します。

すべての人が楽しめるパチンコ・パチスロ業界となるよう業界一体となった取り組みを続けていきます。

※：遊技機メーカーに義務づけられている保安電子通信技術協会（保通協）による型式試験のルール変更

業界全体のイメージアップのために

お客さまに安心して遊んでいただけるパチンコ・パチスロホール環境の整備を図り、業界の健全化を推進する第三者機関として、2006年8月、「遊技産業健全化推進機構」が設立されました。業界の健全な発展に寄与することを目的とした基盤の確立を進めるなど、改革が活発化しています。

このような背景の中、サミーでも、パチンコ・パチスロ業界に対するネガティブなイメージを払拭し、日本の大衆娯楽の一つとして、誰もが気軽に足を運ぶことができる環境づくりを積極的に推進しています。ユーザーのライフスタイルなどの意識調査の実施、業界や組合に対する啓発セミナーの開催、また新規ユーザー獲得に向けた広告やイベントの開催といったPR活動を行っています。

業界全体のイメージアップを通じて、一人でも多くの方に、「気軽に遊べるパチンコ・パチスロ」を提供できるよう、貢献していきます。

イメージアップ広告

地域密着型の社会貢献活動

高齢者福祉施設へのショールームの開放活動

パチンコ・パチスロの遊技は高齢者の身体・精神機能回復に好影響をおよぼす可能性があるといわれています。

サミーでは、2006年6月より東京都豊島区の社会福祉協議会と連携し、福祉施設の高齢者の方々を対象に、本社のパチンコ・パチスロショールームを継続的に開放しており、のべ50回の実施にいたっています。

毎回の活動時には、気軽に参加できるボランティアの一環として有志社員ボランティアを募った社員参画型の活動をしています。また、ご利用の高齢者の中にはリピーターの方も増えており、パチンコ・パチスロの遊技だけでなく、社員とのおしゃべりを楽しみにされている方もいるようです。

ご利用いただいた方の声

- はじめてだったけど、楽しかった。
- 社員の対応が優しく丁寧であるし、若い人と話ができて良かった。
- 気を遣ってくれるのは嬉しいが、逆にこちらが気を遣ってしまう。

社員ボランティアの声

- ご年配の方々がとても活き活きとされている様子が、非常に印象的でした。「是非また来たいわ」と笑ってくださり、自社の取り組みが誇らしく感じられました。
- 仕事柄、人が喜んでいる姿を見る機会があまりないので、素晴らしい活動だなといつも勇気をもらっています。
- 貴重な体験でした。CSR活動の一つひとつの小さな積み重ねが、近い将来大きくなり、遊技人口向上とイメージ改善に寄与すると思います。

東京本社ショールーム開放の様子

イントラネットでのボランティア募集

全国の拠点へ、活動の輪を広げています

サミーでは全国7営業拠点においても、地域の社会福祉協議会との連携を図り、ショールーム開放の活動が実現できるように順次準備を進めており、すでに仙台、札幌、東京、広島支店で実施しています。このような活動を通して、幅広い世代の方々にエンタテインメントを提供しているだけでなく、地域の方々とのふれあいも大切にしています。

各支店の社員ボランティアの声

- CSR活動の一環として初めてこの活動に参加し、楽しんでいただこうと精一杯対応しました。ご利用者も笑顔で接してくださり、とても楽しい時間を過ごせました。
- パチンコ・パチスロ初体験と仰りながらも積極的に楽しんでいただけました。2回目の開催で事故やトラブルもなく、その笑顔にこちらも癒され元気をいただきました。
- 札幌市内は福祉施設に入所されている方々の娯楽が少ない。その状況の中でのショールーム開放は、ご利用者や施設関係者などに非常に好評でした。

東京支店

仙台支店

札幌支店

広島支店

特集3　CSR 活動の展開

グループ一体となった CSR活動の展開に向けて

CSRダイアログからCSRワークショップまで

CSR活動とは、社会の期待や要請に対する感度を高め、それを事業活動の機会・リスクの芽として捉え、経営の意思決定と社員の行動に反映していく営みであると考えています。セガサミーグループでは、CSR活動のPDCAサイクルの定着、社員への浸透、ステークホルダーとのコミュニケーションを促進し、グループ一体となったCSR活動の展開を目指しています。

CSRダイアログ

2005年以降段階的に進めてきたセガサミーグループのCSR活動は、基盤整備のフェーズから、活動展開のフェーズに入りました。(P16:CSRマネジメントページ参照)

これを機にいま一度原点に立ち返り、CSR活動の方向性について認識を共有すべく、2008年3月に、セガサミーグループ各社のCSR委員会の委員長と事務局長を対象としたCSRダイアログ※を開催しました。

ダイアログでは、戦略的にCSRをマネジメントに取り込み、企業ビジョンに沿った一貫した活動として展開している事例をもとにケーススタディを行いました。

また、CSR自己診断プログラムを通じて領域別の強みと課題を抽出し、セガサミーグループの特徴を活かしたCSR活動を今後どのように展開していくべきか話し合いました。

※ダイアログとは、様々な意見・立場の人々が、対話を通じて共感できる部分を見出し、より良い方向や解決につなげていこうとする取り組みです。グループ内の対話からステークホルダーの皆さまや社会との対話へと発展的に展開し、相互理解を醸成していくことが重要だと考えています

CSR自己診断結果概要

「グループ経営理念」と「グループCSR憲章」に沿ったCSR自己診断プログラムを実施し、現状の整理と方向性の確認を行いました。診断結果の概要は以下の通りです。

- コーポレートガバナンス、コンプライアンス、情報開示などの経営の根幹をなす領域、並びに顧客意識、安全・品質、人事・福利厚生制度などの事業のコアとなる領域に関する意識は高い。体制構築および基本的な取り組みはなされていると判断され、今後は評価・改善プロセスを含めた浸透・定着が求められる。
- 一方、将来の潜在的顧客ニーズを捉える意識、取引先と一体となった長期的成長に向けた戦略、人材育成やコミュニケーションを通じた社員との信頼関係の向上、地域社会との対話によるプレゼンスの向上といった、社会の期待・要請に対する感度を求められる領域に関しては、今後の積極的な取り組みが期待される。

今回のダイアログを通じて、コーポレートガバナンスとコンプライアンスを重視した健全な経営が企業活動の基盤であることを改めて確認するとともに、事業活動と企業市民活動によるステークホルダーへの価値の提供を通じて、社会の発展と長期的な企業価値の向上につなげていくことの重要性を認識しました。

CSRワークショップの開催

CSRダイアログを受けて、ホールディングスとセガ・サミー、3社の一部社員による「CSRワークショップ」を開催しました。事前にCSR自己診断を実施し、当日は社会のニーズとセガサミーグループの強みなどについて、活発な意見交換を行うことができました。

参加者からは、「グループの特徴を改めて見つめ直すことができ、有意義な時間だった」、「気づかなかったところに目が向くきっかけとなった」という感想が挙げられました。

今回の実施を第一歩とし、今後、参加対象を広げ、よりセガサミーグループらしいCSR活動の実現へ向けたワークショップ開催などの検討を行っていきたいと思います。

コーポレートガバナンス

セガサミーグループは、コーポレートガバナンスを企業行動の最も重要な基盤として位置づけており、持続的な企業価値創造にとって不可欠なことだと考えています。

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

セガサミーグループは、コーポレートガバナンスを企業行動の最も重要な基盤として位置づけています。企業経営の「効率性の向上」「健全性の確保」「透明性の向上」を「コーポレートガバナンスに関する基本方針」として掲げ、取締役候補者の選任、取締役報酬の決定、経営の監視、監査報酬の決定等、経営の重要な問題をこの方針に従い判断しています。

効率性の向上

迅速かつ適正な意思決定プロセスの確立および企業経営の効率性を向上させることで企業価値の最大化を目指し、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーに対して、その利益の還元に努めていきます。

健全性の確保

激しく変化する事業環境の中、企業価値の最大化を図るため、グループを取り巻く様々なリスクを適切に認識・管理するとともに、法令のみならず倫理・社会規範等をも遵守する体制（コンプライアンス体制）を確立することで経営の健全性の確保を図っていきます。

透明性の向上

企業に対して情報開示の重要性が高まる中、セガサミーグループは、株主の皆さまをはじめとするステークホルダーに対して説明責任を果たすとともに、積極的なIR活動を行うことでディスクロージャーをさらに充実させ、経営の透明性の向上を図っていきます。

コーポレートガバナンス体制

セガサミーグループは、激しく変化する経営環境の中では、業界・市場動向・製品・商品・サービス等に関する知識や経験等に富んだ取締役が迅速かつ最適な経営判断を導き出すと考え、監査役設置会社形態を採用し、あわせて社外取締役の選任、執行役員制度と内部監査体制の強化を行い、運営と管理の両面からコーポレートガバナンス体制を充実させています。

主な施策の実施状況

ホールディングス取締役会は、毎月1度の定時取締役会並びに適宜開催する臨時取締役会において、現在6名の取締役により機動的経営を図っています。なお、グループ各社における一定の経営上の重要事項等については、ホールディングスの取締役会等の機関においても決議・報告を行っています。監査役会は、毎月1度の定時監査役会並びに適宜開催する臨時監査役会において、現在4名の監査役により議論を行い、具体的問題について十分に分析検討しています。そのほか、グループ役員連絡会、グループ監査役連絡会等、模式図の体制により各種施策を実施しています。

内部統制システムの整備状況

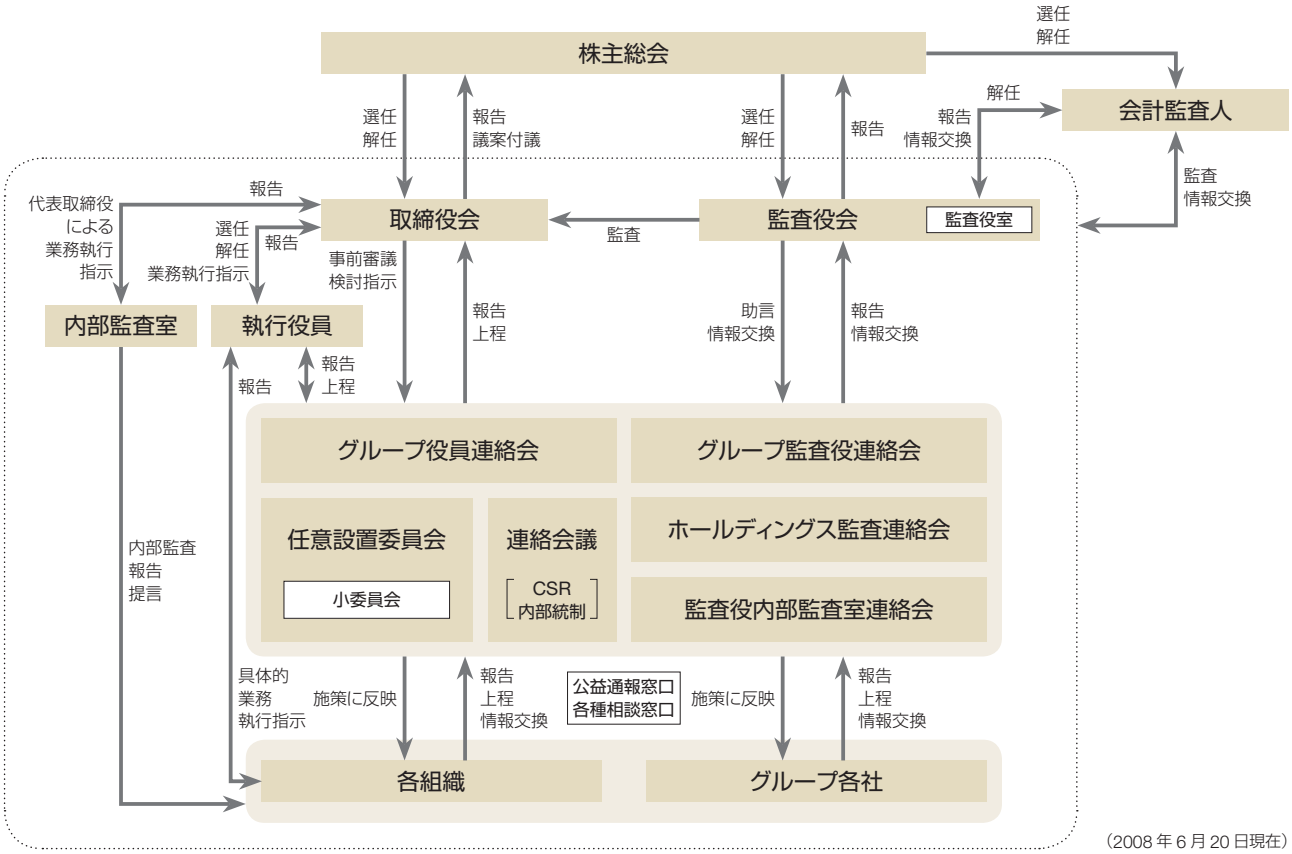
セガサミーグループは、コーポレートガバナンスの充実に向けた施策として、金融商品取引法が求める「財務報告に係る内部統制の評価及び監査」制度（いわゆる日本版SOX法）に対応する内部統制システムの評価・報告の仕組みの整備のために、2006年3月期にホールディングスとセガ・サミーおよび上場子会社からなるグループ内部統制プロジェクトを立ち上げ、ホールディングスとセガ・サミー3社協力体制のもとで基本方針を策定し、グループ各社に方針を示すとともに、企業集団としての内部統制システム構築上の問題点、進捗等について検討、確認しつつ、内部統制の維持向上に取り組んできました。

その結果、2008年3月期までに、グループ各社において整備状況の有効性評価手続がほぼ完了し、また、整備状況の有効性評価および運用状況の有効性評価のトライアル実施において発見された課題については適宜改善・解決に取り組み、2009年3月期から適用される日本版SOX法の求める財務報告に係る内部統制の評価および報告を行う基盤が整いました。

2008年6月には、セガサミーグループにおける内部統制の充実を図るため、従来の組織を改組し、連絡・調整機関としてグループ内部統制連絡会議を設置しました。

グループでは、今後、財務報告の信頼性を継続的に確保するとともに、効率性の向上と健全性の確保も視野に入れ、内部統制システムの維持と構築に取り組んでいきます。

■コーポレートガバナンス体制に関する模式図



（2008年6月20日現在）

リスク管理

リスクマネジメントの根幹はコンプライアンス意識の根づいた企業風土により形成されるものであると考え、状況に応じて、コンプライアンス教育、内部監査活動の充実等、各種施策を講じています。また、セガサミーグループの事業におけるリスクについては、各々リスクマネジメント施策を講じつつ、必要に応じてホールディングスによる情報の吸い上げと共有を行うことによって、グループ全体でのリスクマネジメントを図っています。

情報管理体制の整備状況

ホールディングスの情報管理体制の整備状況については、「情報セキュリティーポリシー」、「情報管理規程」において、企業秘密その他情報の適正な取り扱いおよび管理方法を定めています。また、社内システム端末およびネットワークの使用については、社員から入社時に誓約書の提出を義務づけ、適正な管理・取り扱いを促しています。

公益通報制度

「グループCSR憲章」の精神に則って、グループ内での自浄機能を作用させ、社内における法令違反ないし不正行為等による不祥事の発生を防止するため、内部通報に関する制度（公益通報制度）を制定しています。グループ各社および社外の法律事務所に通報窓口を設置するとともに、通報事項に関する事実関係の調査、是正措置、再発防止策の実施、通報者の保護の制度を設けています。また、各社内には社員からの相談を広く受け付ける相談窓口を設けており、法令違反等の未然防止のみならず、メンタルヘルス対策も行っています。

災害発生等の緊急時対策

セガサミーグループは、災害や事故等で被害を受けた場合でも重要な業務が中断しないよう、また万一中断しても短期間で再開できるよう施策を講じています。ホールディングスは、大規模災害発生時に社員およびその家族の安否確認をスムーズに行えるよう、緊急連絡や被害状況の把握を迅速かつ確実に行う仕組みとして「安否確認システム」を導入しています。また、緊急連絡手順の確認や防災グッズの配布など、災害発生時を想定した対策についても、グループ各社への導入を順次行っています。

CSRマネジメント

セガサミーグループCSR活動の全体像

セガサミーグループのCSR活動は、「私たちは、世界中のあらゆる人々に、夢と感動溢れるエンタテイメントを提供し、豊かな社会の実現と文化の創造に貢献する」という企業理念のもと、次の3つの考えを基本として、2005年以降基盤整備・活動展開・発展の3フェーズに分けて取り組みを進めてきました。

1. 健全な経営
2. ステークホルダーとのより良い関係
3. 企業と社会の持続的発展

セガサミーグループは、今後もこの3つの考えに立ってCSR活動を推進していきます。

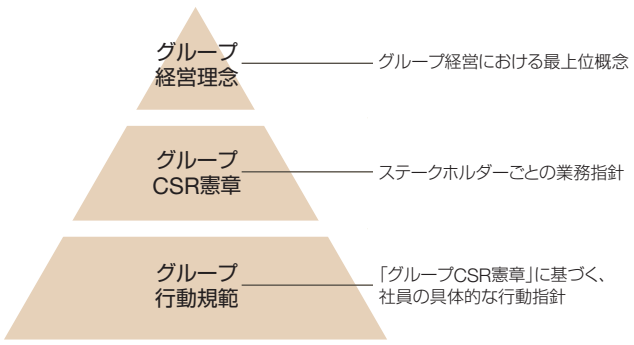
これまでのCSR活動の展開

基盤整備のフェーズでは、上記の3つの考えをグループの経営理念や方針、さらには具体的活動にいたるまで組み込んでいくことを目指して、「グループ経営理念」、「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」を制定。また、ホールディングスとセガ・サミーそれぞれの現状を分析した上で、2006年度にCSR推進項目と推進計画を策定しました。

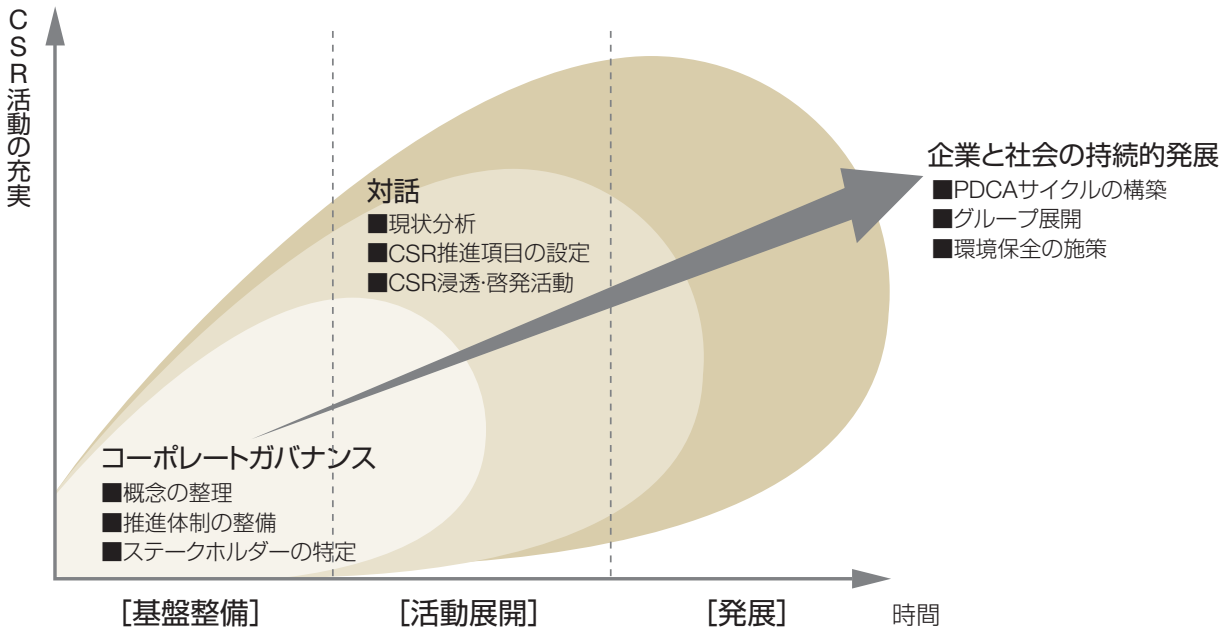
これら過去3年間の取り組みによって、現在は基盤整備の段階を脱し、活動展開のフェーズに入ってきたと考えています。

今後はCSR推進項目(P19参照)、推進計画に基づいてステークホルダーの皆さまの声をうかがい、社会の発展にもつながる形でのセガサミーグループの持続的な成長を目指して、CSR活動を展開していきます。

■CSRの位置づけと概念

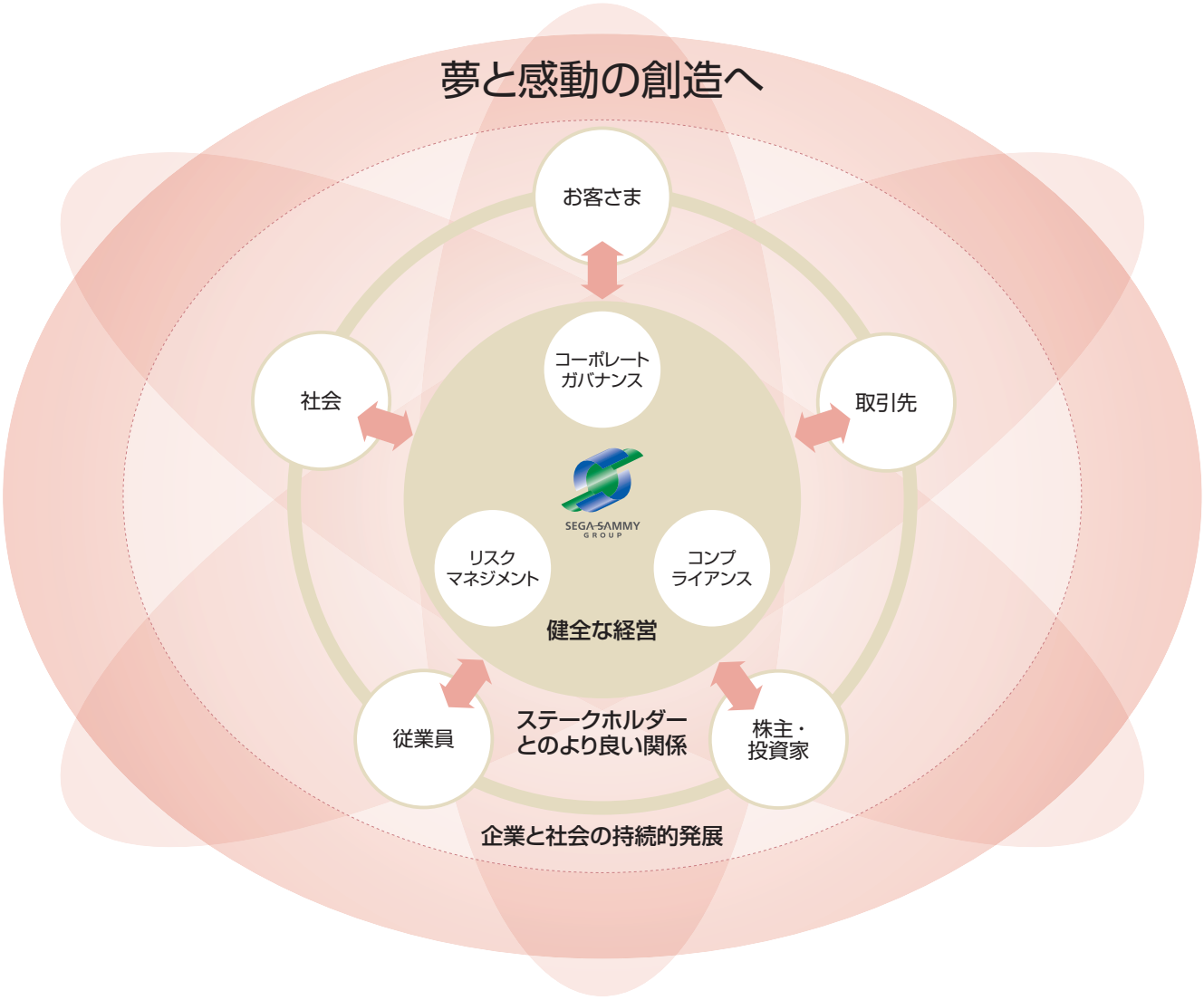


■セガサミーグループ CSRの全体像



セガサミーグループのステークホルダーと、目指すべき方向性

セガサミーグループは、「お客さま」、「取引先」、「株主・投資家」、「従業員」、「社会」という5つのステークホルダーの皆さまとのより良い関係の構築・強化を目指し、健全な経営体制の確立を図りつつ、セガサミーグループと社会双方の持続的発展を目指しています。



■これまでの歩み

2004年

10月　セガ・サミー経営統合　セガサミーグループ誕生

2005年

8月　ホールディングスCSR専任部署設立、
「グループ経営理念」、「グループCSR憲章」制定

12月　「グループ行動規範」制定

2006年

4月　CSRハンドブック発行・配布

10月　CSR推進項目策定

12月　CSR推進計画策定

2007年

1月　CSR推進項目の進捗状況チェック（サーベイ）実施

5月　環境ハンドブック発行

7月　コンプライアンスハンドブック発行

8月　CSRレポート創刊

2008年

4月　CSR推進項目の進捗状況チェック（サーベイ）実施

CSRの推進体制

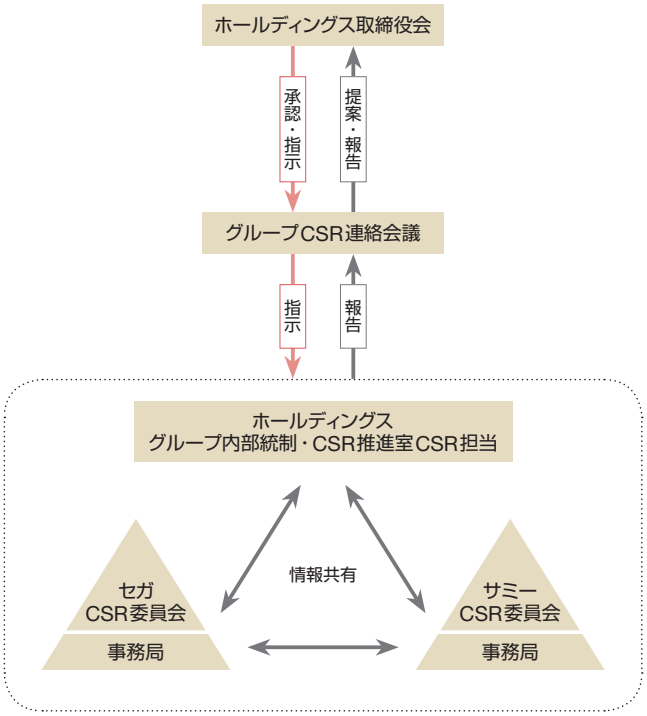
CSR活動推進のため、2007年7月までは、CSR統括委員会においてグループ全体のCSR推進の方針や方向性の決定、具体的な推進策の策定や指示、進捗状況の確認や指導を実施してきました。そしてCSR活動が、基盤整備の段階を経て、活動展開のフェーズに移行したことを受け、右記のように新たな組織体制に発展させました。

CSR活動を推進する上で基盤となる健全な経営の実現にあたり、コーポレートガバナンスやコンプライアンス、リスクマネジメントの充実を図るため、ホールディングスにグループCSR連絡会議とグループ内部統制連絡会議を設置しました。これらの会議は、グループ内のCSR活動および内部統制活動に関する調整機能を担っています。

また、円滑なCSR活動推進のために、ホールディングスには専門部署としてグループ内部統制・CSR推進室を設置し、CSR活動に関する統括機能を持たせるとともに、セガおよびサミーのCSR委員会事務局と連携し、具体的なCSR活動に関する施策の検討・実施・評価（PDCAサイクル）などを行っています。

セガ・サミーにおいては、各社社長が委員長となるCSR委員会を開催しており、各社のCSR推進計画の指示・承認を行っています。

■セガサミーグループCSR推進体制



（2008年6月20日現在）

CSRの浸透

CSR活動は、社員の一人ひとりがCSR憲章を基本に行動してこそ、私たちが掲げる「グループ経営理念」を実現できるものです。

そのためセガサミーグループは、グループすべての社員を対象としてCSR活動の重要性や取り組む意義を伝えるとともに、社員それぞれの理解度に合わせた浸透策を企画し、実行しています。

経営トップの生の声を伝えて

経営トップが自らの言葉で、社員に対してCSR活動の重要性やCSRに対するゆるぎない信念を繰り返し伝えています。グループ各社のトップからも、各事業会社において、適時適切にCSR意識の重要性を社員に対して繰り返し伝え続けています。

冊子やポスターを使って

全事業所にCSRポスターを掲示し、グループ社員に「グループ経営理念」や「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」などを掲載したCSRハンドブックや手帳を配布しています。

イントラネットを使って

パートやアルバイト、契約社員を含む全従業員が閲覧できるイントラネット上でもCSR情報を提供しています。また、より身近に感じてもらうために、CSRブログやコラムも掲載しています。

CSRブログ（イントラネット）

平成20年
セガサミーグループ入社式風景

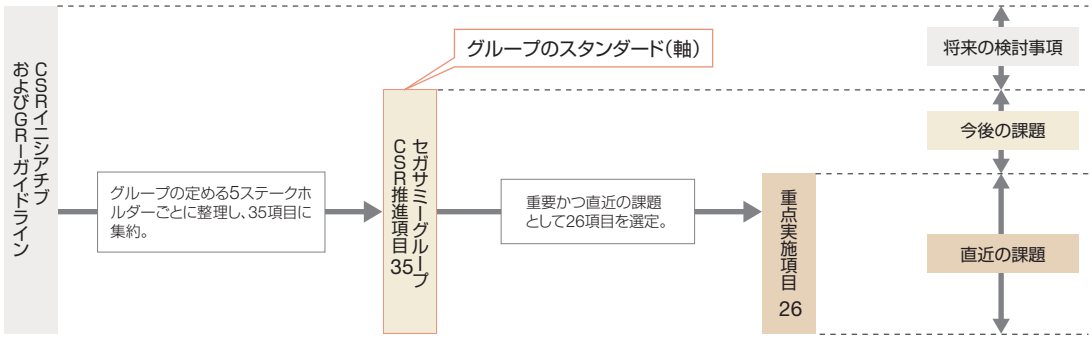
CSRポスターと全社員に
配布したCSR ハンドブック

グループCSR推進項目

セガサミーグループではグループを通して統一感のあるCSR活動を進めるため、CSR活動のスタンダードとなるグループCSR推進項目をステークホルダーごとに35項目にまとめました。さらにそのうち、重要でかつ直ちに実施する必要のあるものとして、26の重点実施項目を設定しました。グループCSR推進項目はGRIガイドライン（P3参照）および「CSRイニシアチブ※」を参考にしながら、「グループCSR憲章」と「グループ行動規範」の精神のもと、セガサミーグループの事業性や社会性を考慮しつつ、企業と経済・環境・社会との共生のため必要となる項目を抽出し大きくまとめたものです。セガサミーグループはこのように重要性に応じた取り組み順位を設け、着実なCSR展開を目指しています。

※：「CSRイニシアチブ」日本経営倫理委員会　CSRイニシアチブ委員会著
企業がCSRを進めていく上での羅針盤となるCSR経営理念・行動憲章・行動基準の推奨モデル

■グループCSR推進項目の考え方



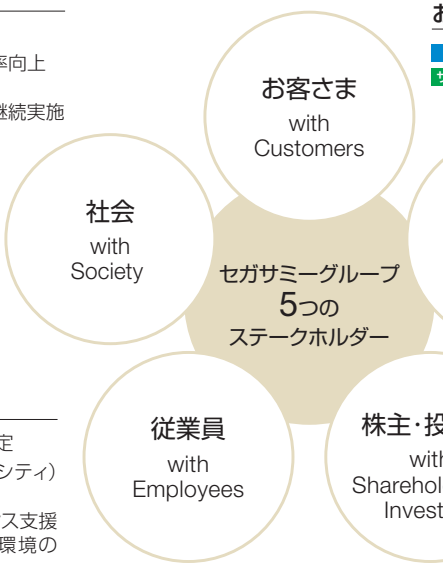
2007年度セガサミーグループにおけるCSR推進項目の取り組み状況

2007年度にホールディングスとセガ・サミーのCSR事務局は、現場の関係部門のCSR活動の進捗状況を調査するために調査票を配布し、2回目のサーベイを実施しました。その結果、主な取り組みのトピックスは以下の通りでした。

■コンプライアンスの取り組み

コンプライアンス体制の強化・充実

■ステークホルダーごとの取り組み



社会

スポーツを通じた次世代育成

セガ　アミューズメント機器リサイクル率向上
グリーン電力の拡充

サミー　地域へ密着した社会貢献活動の継続実施
従業員参画による環境負荷軽減

お客さま

セガ　安全で高品質な製品へ向けた体制強化

サミー　顧客（ホールおよびユーザー）満足の向上

取引先

セガ　取引先選定基準の拡充

サミー　公平かつ公明な基準による取引先の選定と対応

従業員

ボランティア休暇制度の制定

セガ　多様性（ダイバーシティ）へ向けた対応強化

サミー　ワークライフバランス支援と働きやすい職場環境の構築

株主・投資家

株主・投資家の皆さまとの双方向コミュニケーション施策の実施

お客さまとともに

CSR憲章 With Customers

私たちは、いつの時代においても、お客さまとともに歩みながら、夢と感動溢れるエンタテインメントを提供し続けます。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、お客さまについては、以下の項目を重点的に実施しています。

- ·CS（顧客満足）
- ·安全·高品質
- ·製品表示·情報開示
- ·マーケティング·市場調査
- ·営業戦略
- ·個人情報保護

私たちにとってお客さまとは

セガサミーグループが販売·提供している製品、サービスを楽しまれるすべての方々がお客さまです。私たちはすべてのお客さまのニーズに応え、心から楽しんでいただけるようなエンタテインメントを提供します。

セガ

セガのゲームソフトウェアを購入してくださるお客さま、セガの運営するアミューズメント施設にご来場されるお客さま、またセガのアミューズメント機器を設置してくださるアミューズメント施設運営事業者の皆さまなど、すべてが大切なお客さまです。

サミー

サミーのパチンコ·パチスロ遊技機をご購入いただくホールの皆さま、そしてパチンコ·パチスロを実際にホールで楽しんでいただくユーザーの皆さま、どちらも大切なお客さまです。

CS（顧客満足）向上に関して

お客さまの満足のために社内体制を整え ハード·ソフトの両面からアプローチ

お客さまから寄せられる様々な声に総合的にご対応させていただくため、セガ·サミーは共通の仕組みとしてお客さま相談室を設置しています。お客さま相談室は、グループ会社である日本マルチメディアサービス株式会社（JMS）と連携し、専門の窓口スタッフにより迅速かつ丁寧な対応を心がけています。

日本マルチメディアサービス株式会社は、104などの電話番号案内サービス業や各種コールセンター業務など、マルチメディア情報通信ネットワークサービス事業を行っています。

セガ

安全で高品質な製品の提供が最大のCS

セガでは、「安全で高品質な製品へ向けた体制の強化」をCSR重点推進課題として掲げ、CS（顧客満足）の向上を目指し、体制を強化しています。

具体的には、各種プロジェクトは、トップマネジメントによる「プロジェクト会議」にて意思決定され、一貫した管理·運営（開発着手から販売·プロジェクトの最終評価まで）を遂行。プロジェクトウォッチ機能（第三者によるプロジェクト監視と有事の際のアラーム発信）も設定され、管理基準のQCD（クオリティ/コスト/デリバリー·スケジュール）それぞれについて、これまでの反省も踏まえ管理の強化を図っています。

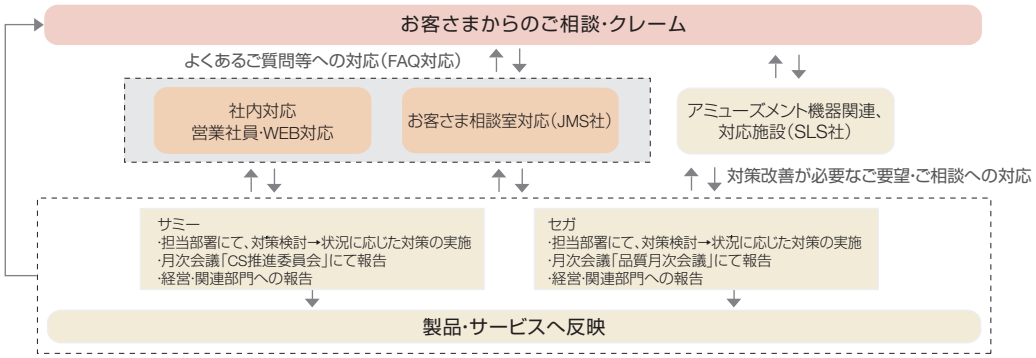
また、基礎システムの強化として、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001に則りシステムを構築し、「創造性で市場をリード、品質で顧客の満足を」という品質方針のもと、目標管理とその実践を通じて、安全で高品質な製品の提供を推進しています。

いい接客は、いい職場環境から。 店舗の人事·教育が最大のCS向上

株式会社セガ　下山 悠史

セガ ワールド 東大和の店長として運営を任されています。機械購入やレイアウト、利益管理は当然ですが、最も重要視しているのが人事·教育です。社員には、定時で退社し、有給休暇も取れるよう、しっかりと指導していますし、一人の人間として、人生の先輩として、私のノウハウはすべて教えます。最前線に立つスタッフの体調や意欲が下がれば、いい接客はできません。その上で、CS向上策としてお客さまによるスタッフの投票イベントや、地域の娯楽施設との連携、年齢を問わず遊べる空間づくり、メダル無料お試しサービス、分煙化などを進めています。安全面では、機械·部材の点検は毎日徹底して行いますし、地元警察にも定期的に巡回してもらいます。プラスアルファの運営でお客さまに喜ばれた時、大きなやりがいを感じます。

■お客さまからの声にご対応する仕組み



お客さま相談室の対応の様子

より良い製品・サービスを目指して

セガでは、お客さま相談室のほかに、保守・補修・パーツなどのアフターサービス、物流機能を担う株式会社セガ・ロジスティクスサービス（SLS・P37参照）と関連部門が品質問題や改善へ向けた傾向分析を定期的に行い、開発・生産・販売へフィードバックし、改善へ向けた取り組みを行っています。万一、PL（製造物責任）問題等の重大な不具合が発生した場合を想定し、報告経路の設定はもちろんのこと、危機のレベルに応じて、対策組織の設置から情報開示、事態の早期解決、恒久的再発防止までを迅速に行うための体制強化も行っています。また、施設運営においては、従来の施設監査に加え、安全管理専任者を置き、全施設において定期的に点検を行うなど、安全を強化しています。

これからも、品質問題の未然防止を目指し、さらなる品質・安全の担保が可能となるようフェイルセーフティング（信頼性設計）の観点で活動していきます。

サミー

ソフト面での顧客満足

ホールにとっては、来店客数の多い土日・祝日に遊技機が故障することは大変な営業機会損失です。そこで、2005年12月より、他社に先駆けて今までパチンコ・パチスロ業界内では着手されていなかった平日深夜・土日・祝日のカスタマーサポートを行い、ソフト面での顧客満足の向上に取り組み始めました。

2006年10月には、サミー内にカスタマーサービス部を新設。JMSとの連携により、アフターサービスレベルの全国的な統一が可能となりました。

後方支援体制の組織化により、サービスの質も向上し、実際に、ホールの皆さまからは「故障相談について丁寧に答えてくれた」「丁寧な応対で安心して利用できた」という満足の声が寄せられています。リレーションシップの強化につながり、様々な企画のご提案などにも注力できる環境になったといえます。

ハード面での顧客満足

サミーはこれまで、斬新かつエンタテインメント性の高い"業界初"となる製品を数多く開発してきました。それは、ユーザーに心から楽しんでいただける製品をご提供することが、最大の顧客満足だと考えているからです。ライトユーザー向けの「遊べる遊技機」の開発をはじめ、様々な世代のニーズに対応した全方位型の遊技機開発を進めることで、多種多様な営業形態を取るホールに満足されることを目指しています。ハード面においても多彩なラインナップを取り揃える多角的な展開により、すべての顧客満足を図っています。

バランスのとれた管理体制

サミーでは、製品開発、品質保証、顧客管理など各種のデータを一括管理することで、バランスの取れた管理体制を実現しています。また、ホールの皆さまの立場に立った、ホール経営の最適化の企画、提案、運営を目指しています。今後も、全社一貫したルールに基づいて、ホールの問題を迅速に解決する体制のもと、クレームの原因を追及し品質を高め、顧客満足度の向上に努めていきます。

立ち上げから1年半。CS向上意識はグループ内でしっかり浸透しました

サミー株式会社　後藤 広之

いま、「行政・メーカー・パチンコホール」が三位一体となって業界の健全化を進めています。それに伴い、カスタマーサービス部に寄せられる問い合わせも幅広くなり、新台の性能も複雑化する中で、私どもへの要請は日増しに高まっています。エンドユーザー、ホールの皆さま、社内の営業社員と直接接点を持つ私どもは、アフターサービスでサミーの看板を背負う重要な部署です。立ち上げから1年半で、全国均一のサポート体制を構築するなどの成果を挙げ、当社のサービスレベルは格段に向上しました。問い合わせ内容はすべてログに残して関連部署にフィードバックしています。それにより少しでも製品が良くなったり、現場が楽になったりと、CS・ES両方の向上につながればと思います。

製品・サービスに関する情報の開示

お客さまにより正しくご理解いただくために、適切なマニュアルやツールを活用

セガ

お客さまに安全にお使いいただけるよう、「取扱説明書」は、法規制(PL法等)、業界ガイドライン、社内のマニュアルに準じて、分かりやすく、適切な表現を心がけています。また、各種製品における、利用可能な対象範囲の明確化や、倫理問題にも積極的な取り組みを行っています。具体的には、アミューズメント機器やアトラクションごとの利用規定の制定、ガイドブックや掲示によるご案内を行い、ゲームソフトウェアについては、お客さまが安心して商品を選択できるよう、1994年に国内コンシューマ業界で唯一、倫理についての規程を定めた審査組織「テレビゲーム倫理審査機構」をセガ社内に設立。1995年より商品へのレーティング表示を開始。その後、業界として公正かつ適正なレーティングがCS向上へつながるものと考え、後に発足したコンシューマゲームソフト業界団体(CESA※1/CERO※2)発展に寄与すべく、規程や活動実績情報を提供してきました。現在は、すべての商品内容を吟味し、倫理審査(CERO審査)結果に従った表示を行っています。

※1:CESA= 社団法人コンピュータエンターテインメント協会
※2:CERO= 特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構

ひと目で製品概要が分かるように、製品パッケージには、ガイドラインに沿ったレーティングマークを表示しています

サミー

サミーでは、ユーザーに対して、誤解を与えるような表現をせず、パチンコ・パチスロを心から楽しんでいただけるようなツールを通じて製品をご紹介しています。また、一部市場に流布している根拠の無い不当な攻略情報に対し、サミーWEBサイト内において注意を促すなどの対策を図っています。そのほかにも、営業社員が使うツールでの曖昧な表現、誇大な表現を抑え、ホールの皆さまに正しく情報が伝わるよう工夫しています。またホールの皆さまのご協力のもと、ユーザーに楽しんでいただけるようなツールも配布しています。

サミー WEB サイトでの情報提供

マーケティング

より多くのお客さまのニーズに応えるための、様々な調査・分析

セガ

セガでは、お客さまのニーズに応えるため、マーケティングを重視しています。製品に同梱のアンケートや、セガWEBサイトへのお客さまの声、新製品やセガに対するお客さまのご意見の調査、また、アミューズメント施設でのアンケート、新製品のロケーションテストなどを通じ、様々なお客さまの姿やニーズが浮かび上がってきます。

こうしたニーズに応えるため、アミューズメント事業においては、初心者でも親しみやすいゲームや、お客さまごとにセグメントされたアミューズメント施設を開発していくことも大切だと考えています。

またコンシューマ事業においては、中期の製品ラインナップ戦略や、次年度発売予定の製品が、お客さまのニーズに合っているかといったミーティングを踏まえ、改めてビジネスプランを策定し、より多くのお客さまのニーズにしっかりと応えるための製品開発に取り組んでいます。

サミー

サミーでは、既存ユーザーはもちろん、幅広い層の皆さまにもっと楽しく、気軽に遊技していただきたいという思いから、射幸性よりもゲーム性の高い遊技機の開発を行っています。市場のニーズを的確に把握するために、従来から機種ごとにホールの皆さまに対して機種評価アンケートを実施しています。さらに、こうしたアンケート結果に加え、製品CMを活用した「企業認知度調査」など様々な分析結果を基に、製品開発に努めています。

また、月に1度業界や市場動向をまとめたマンスリーマーケットレポートを発行し、営業社員に配布するとともに、スポットレポートと呼ばれる地域ごとの市場動向を分析・把握した情報を共有しています。このような様々な情報を、ホールの皆さまに営業社員がいち早く伝えることで、戦略的な新台導入などをサポートしています。

営業への取り組み

お客さまの満足のために、万全な体制を整備

セガ

営業戦略

セガでは、全社員がマーケットインの発想を持ち、求められる製品を素早く市場に投入できる体制を整えています。

コンシューマ事業においては、プロジェクト会議などを通じ、時代を先取し、お客さまのニーズに合った楽しく質の良い製品をお届けすることを常に目指しています。

アミューズメント機器事業においては、あらゆる企業のお客さまとのリレーション強化の一環として、販売支援システムを構築し、お客さま個々のニーズにマッチした製品を迅速にご提供できるよう努めています。また、セガはアミューズメント業界の健全な発展のために、業界が直面する様々な問題を解決することを目的とした会を設け、お客さま企業とともに活動を行っています。

アミューズメント施設事業では、常にお客さまの声を集め、施設運営に活かし、また、アミューズメント機器の開発部門へもフィードバックすることで、あらゆるお客さまに優しく、安全で楽しい施設づくりを目指しています。

営業社員の教育

セガでは、コンシューマ事業において、製品情報の共有を図り、円滑な営業活動実現のために、毎月新製品に対する意見交換会を実施しています。アミューズメント機器事業においては、営業社員の教育計画を定め「顧客リレーション強化に必要な提案営業のためのスキルアップ」を目標として、年間の教育を実施し、加えて、毎月新製品に関する勉強会も実施しています。また、アミューズメント施設事業においても、アミューズメント施設でのお客さまの満足を最優先に、喜んでいただける接客を目指し、各階層の研修を実施しています。

アミューズメント施設事業での新入社員基礎研修

サミー

営業戦略

サミーでは、パチンコ・パチスロ関連事業におけるトータルサービス企業を目指し、ホールの皆さまの様々なニーズにお応えするべく、「営業体制の強化」を図り、営業計画を策定し営業活動に取り組んできました。また、パチンコ・パチスロなどの製品開発、サミー川越工場における生産体制の充実を図るとともに戦略的な設備投資も行っています。これらの取り組みにより、市場ニーズを開拓し、力強く営業展開することで、ホールの皆さまへの支援を強固なものとしています。

製品内覧会の様子

営業社員の教育

サミーでは、新入社員および中途社員を対象に各々研修を設け、マネジメントスキルの教育を実施しています。営業スキルについては、サミーの出資するG&Eビジネススクールにおいて、エンタテインメント全般に関する幅広い知識を習得させるための研修も行っています。ホールの皆さまの様々なご要望に対応できるよう多角的な視点に立った育成プランにより、教育体制を整備しています。

個人情報保護の取り組み

より深い信頼の獲得を目指して、個人情報保護に努める

近年、事業活動における個人情報の重要性や有用性が高まっている一方、社会からは個人情報の適切な取り扱いを求められているということを強く認識し、セガサミーグループは、個人情報の保護に関する法律を遵守することはもとより、個人情報取扱事業者として、各社プライバシーポリシーのもと、個人情報の漏えい、滅失または毀損などを防止するための適切な安全管理措置を講じ、皆さまからお預かりした個人情報の保護に努めております。

取引先とともに

CSR憲章 With Partners

私たちは、取引先と公平・公正な関係を保ち、互いに切磋琢磨し、良きパートナーとして、ともに夢と感動溢れるエンタテインメントの提供を目指します。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、取引先については、以下の項目を重点的に実施しています。

・公平な選定・公正な関係
・清廉性
・取引先との対話

グループ行動規範

セガサミーグループでは、取引先に対するグループ社員の行動指針として、「グループ行動規範」の中に6項目を掲げています。

①取引先との関係は、常に清廉・透明・公正なものとし、もたれ合いや癒着と誤解されるような行動は、一切行いません。

②取引先の選定については、信用度、技術力、開発力、価格、環境への対応力などを総合的に考慮し、公平かつ明確な基準で判断します。

③グループ会社とも、透明で公正な取引を行います。

④取引先に接待・贈答を行う場合は、社内で定められたルールに従うだけでなく、社会的常識に照らし合わせ、節度を保ち、適切に判断し、実行します。

⑤政治家、公務員（法人・団体の役職員であってみなし公務員とされる者を含む）、外国公務員など国内外の法令により禁止されている者に対して、贈賄をはじめ利益供与、便宜供与と見られる行為を行いません。

⑥取引先とは、立場を利用して利益や便宜の供与を受けるなどの個人的利益の追求を行いません。

公平な選定

パートナーとの良き信頼関係を築くため、多角的な視点から、グループ全体の基準や体制を整える

取引先選定基準を設け、パートナーの皆さまとともに

セガサミーグループでは、取引についての基本的な考え方として、グループ全社員に対し行動指針となる「グループ行動規範」を掲げ、意識の喚起を図っています。「グループ行動規範」は適宜見直しを図っていくため、社会情勢の変化やステークホルダーからの要請を全グループ社員はいつも意識していることになります。

また、「グループCSR憲章」、「グループ行動規範」の精神を受けた、グループとしての取引先選定方針を掲げています。この方針では、清廉性、経済性、安全・品質、保守、技術、環境の面から取引先を選定すべきと謳い、この方針を受けたグループ各社は自社の事業領域による特性に合わせ、個別の基準を制定する予定としています。セガサミーグループのコンプライアンスに対する取り組みは、グループ会社だけでなく広く取引先のご理解を得てご協力をいただくことで、一層幅広く、かつ実効性が高くなるものと考えているからです。

セガ

購買ルールに従って取引先を評価・選定

セガでは、社内規程に従い取引先の評価・選定および、継続的な管理を実施しています。評価・選定については、継続的な管理結果を含め、複数部門で審査を実施しており、最終的な総合評価データから適正・適切であるかの公正な判断を行っています。

アミューズメント事業においては、参加各社の製造力強化と経営体質強化に寄与することを目的として、部品・材料等を納入する企業、半製品の加工外注企業等を会員とする「セガ協力会」を組織し、事務局としてその維持・運営にあたっています。この「セガ協力会」を基盤に、発注方針の開示を行うとともに、相互繁栄・啓発を目指した分科会や各種研修会を開催しています。また、取引先と、セガ経営トップとが直接対話できる機会も設け、業務運営が独善に陥らないよう、チェック機能を果たす場としても活用しています。

セガ協力会 2007 年度総会

サミー

外部機関・複数部門によるチェック

サミーでは、購買外注管理規程、取引先口座管理規程など各種規程を定め、一定の購買ルールに従った取引先の評価・選定並びに取引の実施に努めています。

新規取引先の選定にあたっては、複数部門による審査を実施し、相手先や外部調査機関から入手したデータを合わせ参照した上で適正性を判断しています。また、取引開始後も、定期的な監査を実施し、評価の見直しを図っています。

公正な関係

パートナーとの公正な関係を維持するため、コンプライアンスを軸とした取引の清廉性の強化を実現

法令遵守をはじめとするコンプライアンス体制の推進

セガサミーグループは、法令遵守を目的として、グループ各社において業務の適正を確保する体制の維持・向上に努めているほか、グループ各社を対象にした勉強会を開催するなど、法令に関する知識の周知を適宜実施しています。

特に下請代金支払遅延等防止法(下請法)遵守体制の一層の強化を図るため、内部監査部門がグループ会社に対して下請法に関連した監査を定期的に実施しています。またグループ会社においては、内部監査部門の指導により、コンプライアンス体制に関する自己点検を継続的に実施しています。

また、「グループ行動規範」の精神を受け、これを具体化した内容のコンプライアンスハンドブックを制作しました。このハンドブックは、日常遭遇しそうな出来事を想定した内容を掲載し、グループ社員に分かりやすく読みやすく編集しています。これ以外にも、継続的な社内教育や啓発を行い、コンプライアンス意識の向上に努めています。

セガ

清廉性の表明と認識のさらなる強化

セガでは、取引先に対し、儀礼廃止や金品の贈与、接待等を行わないことなどの書面通知を行うとともに、「セガ協力会」等の場において、取引関係の清廉性の維持を表明し、コンプライアンス推進への参加についても要請を行っています。

また、グループコンプライアンス体制の一環として、管理職や一般社員を対象に、各種セミナーを開催し、その中で、取引先との公平・公正な関係保持や、清廉性の維持に対する認識強化を図っています。

サミー

管理レベル向上と協力体制の構築

サミーでは、取引先に対して適宜説明会を実施するなど購買方針の開示に努めています。また、適宜監査を実施し、取引先評価の見直しをするとともに、互いの管理レベルの向上と信頼関係の強化を図っています。

また、コンプライアンス体制の構築と運用を最重要事項として捉え、体制の整備を図るとともに、取引先に対して「取引の清廉性」への考え方、および「お取引さま相談窓口」設置に関して、文書にて通知しています。

「取引の清廉性」については、以下の事項について理解していただくことに努めています。

- ●役員や社員が取引先との健全かつ正常な取引関係を維持していくこと
- ●役員や社員が取引先との一般的な商慣習を逸脱した接待・贈答を受けたり行ったりしないこと

こうした取り組みにより、健全な取引を通じてお互いの信頼関係を深め、協力体制を続けていきます。

また「お取引さま相談窓口」については、サミーの役員、社員が取引先に対して、万一不当な要求をするようなことがあった場合を想定し、取引先のための相談窓口を設けました。相談を受けた場合は、取引先が不当な扱いを受けることがないよう中立的な立場であるコーポレート本部が対応し、担当役員が責任を持って処理を行います。

これらを2005年度に全取引先に通知し、新規の取引に関しては取引開始時に文書にて通知するとともに、コンプライアンスに関する説明を実施しています。

このほか、直接の取引を担当していない第三者部門(内部統制推進室)による購買実績のモニタリングを行うことにより、公正性の確保を図っています。

健全・良好な関係を維持するための定期的な説明会

株主・投資家とともに

CSR憲章 With Shareholders and Investors

私たちは、グローバルな視点をもって事業を展開し、継続的な成長・企業価値の最大化を目指します。
そして、適正な利益還元と適時的確な情報開示を通し、透明な経営を図り、株主・社会の期待に応えます。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、株主・投資家については、以下の項目を重点的に実施しています。

・正確・公平・迅速な情報開示
・株主・投資家との双方向コミュニケーション

株主構成の推移

（単位:%）

所有者区分	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期
政府・地方公共団体	0.00	0.00	0.00
銀行	0.52	0.51	0.42
信託銀行	11.60	7.88	8.19
生命保険会社	1.07	1.19	0.96
損害保険会社	0.33	0.28	0.28
そのほかの金融機関	0.54	0.47	0.01
金融商品取引業者	1.04	2.02	0.61
そのほかの法人	7.02	7.33	7.54
外国法人等	35.50	36.70	37.07
個人・そのほか	31.34	32.57	33.87
自己名義株式	11.04	11.04	11.05
合計	100.00	100.00	100.00

※：2008年3月末現在、株主数は99,034名

正確・公平・迅速な情報開示

株主・投資家の皆さまの信頼を勝ち得るために法や規則に則って適正に対応

透明性の高いディスクロージャー・ポリシー

ホールディングスでは、東京証券取引所の定める「上場有価証券の発行者の会社情報の適時開示等に関する規則（以下、「適時開示規則」という。）」に沿って、情報開示を行っています。また、適時開示規則に該当しない情報についても、株主・投資家の皆さまの要望に応えるため、より正確・公平・迅速な情報開示を積極的に行っていきます。

●公表すべき重要情報

以下の会社情報を公表すべき重要情報と位置づけています。

- ●金融商品取引法、各上場証券取引所適時開示規則等により開示が要請される情報
- ●上記に該当しない投資家の皆さまの投資判断に大きな影響を与えると思われる情報

●開示場所・時間に関するルール（TDnetなど）

適時開示規則に該当する情報の開示は、同規則に従って、東京証券取引所への事前説明の後、適時開示情報伝達システム（TDnet）にて公開しています。TDnetにて公開した情報は、ホールディングスIRサイトにて速やかに掲載しています。また、適時開示規則に該当しない情報に関しても、適切な方法により正確かつ公平に株主・投資家の皆さまにお伝えしています。

●沈黙期間

決算発表資料準備期間中に株価に影響のある情報が漏れることを防ぐために、決算発表前4週間を沈黙期間として、決算に関連するコメントや質問への回答を控えています。ただし、沈黙期間中に業績予想値と実績値が大きく乖離する見込みが出てきた場合には、適宜、プレスリリースにより情報開示を行うこととしています。

株主・投資家の皆さまとの双方向コミュニケーション

ホールディングスでは、国内外における投資家向け説明会などの実施や、株主・投資家の皆さまからのお問い合わせにお答えするためのIRインフォメーションセンターの設置などを行っています。また、アニュアルレポートやホールディングスWEBサイトをはじめとした各種IR制作物を通じ、適時的確に経営情報を発信しています。

■ 2007 年度における主な IR 活動

決算説明会	2 回
四半期決算説明会（電話会議）	2 回
スモールミーティング	2 回
個別ミーティング	461 回
工場見学会	2 回
個人投資家説明会	1 回

株主・投資家の皆さまとの対話の充実

株主・投資家の皆さまとの様々なコミュニケーション活動を通じて、当社の経営情報を的確に伝達すると同時に、投資家の皆さまからの経営に対する貴重なご意見を収集し、経営へのフィードバックを行っています。

具体的には、国内外の機関投資家や証券アナリストに対して決算説明会を半期に1回ずつ、また四半期決算に関してはテレフォンカンファレンスを開催しています。そのほか1対1の個別取材やスモールミーティングなども積極的に開催、参加をしています。海外の機関投資家に対しては年1回の海外ロードショー（訪問地：アジア、欧州、米国）を行っています。またサミー川越工場の見学会や、個人投資家向け説明会への参加などの活動を実施しています。

ホールディングスIRサイトによるグループ情報の発信

ホールディングスIRサイト上にセガサミーグループの経営情報を適時的確に掲載しています。「一目でわかるセガサミー」ページではグループの事業を分かりやすく紹介し、「バーチャル工場見学」ではサミー川越工場を紹介、「Virtual Amusement Center Tour」（英語版のみ）ではセガのアミューズメント事業を海外向けに紹介するなど、株主・投資家の皆さまにグループへの理解を深めていただくための情報を掲載しています。今後も皆さまのご意見を反映し、さらなる充実を図っていきます。

ホールディングスIRサイトは大和インベスター・リレーションズ株式会社が2008年5月に発表した「インターネットIRサイトの優秀企業」に選出されました。なおホールディングスIRサイトが選出されたのはサミーのIRサイトでの受賞を合わせて8年連続となりました。

利益還元とインサイダー取引防止

株主・投資家の皆さまの要望に適宜・的確・十分に応えるために適正な株主還元と情報管理を実施

株主の皆さまへの利益還元

ホールディングスでは、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題として位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。

インサイダー取引防止への取り組み

ホールディングスでは、役員および社員によるインサイダー取引を防止するために、「セガサミーグループインサイダー取引防止規程」を制定しています。この規程は、法令が定める自社株券等の売買規制に関する事項を記載し、あわせて役員および社員による自社株券等の売買について事前の届出義務を定めることにより、インサイダー取引発生の未然防止に努めています。

また、イントラネット等によりインサイダー取引規制に関する情報を適宜発信するなど、役員および社員のインサイダー取引防止への意識が高まるよう、各種施策を実施しています。

ホールディングス　IR サイト　トップページ
http://www.segasammy.co.jp/japanese/ir/index.jsp

2008 年「インターネット IR サイトの優秀企業」に選出されました

セガ 従業員とともに

CSR憲章 With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

CSR重点推進課題

セガはグループCSR憲章を受け、CSR重点推進課題として以下の項目について重点的に実施しています。

- ·メンタルヘルス対策
- ·障がい者雇用率の向上
- ·育児に関する制度の充実
- ·有給休暇取得率の向上

セガ 人事関連項目定量データ

男女別採用数	男性	女性	合計
新卒採用数※1	140名	43名	183名
中途採用数※2	79名	25名	104名
社員数	2,934名	503名	3,437名

平均勤続年数※3	8年8ヶ月
管理職	
管理職数	603名
全社員に占める割合	17.5%
女性管理職	
女性管理職数	15名
全管理職に占める割合	2.4%
有給休暇取得率※2	31.6%
育児休業取得者数※2	19名
労働災害発生件数※2※4	
通勤災害発生件数	28件（19件）
勤務内災害発生件数	62件（55件）

※:注記の無い場合2008年3月31日現在
※1:2007年4月1日実績
※2:2007年4月1日～2008年3月31日実績
※3:セガグループ内転籍を通算
※4:（ ）内は、アミューズメント施設での発生件数

キャリア形成

やる気を引き出す人事制度と教育制度により活発な社内コミュニケーションで働きやすい職場に

【人事制度】コース選択可能な資格制度と公正な評価による処遇

セガでは、社員のさらなる能力発揮とモチベーション向上のため、2007年4月より人事制度を刷新しています。これは、社員が強いプロ意識を持てるよう、資格·役割·成果に応じた報酬の実現を図るというもの。この人事制度の適切な運用に不可欠である公正な評価実現のため、管理職全員に評価者研修を必須としています。

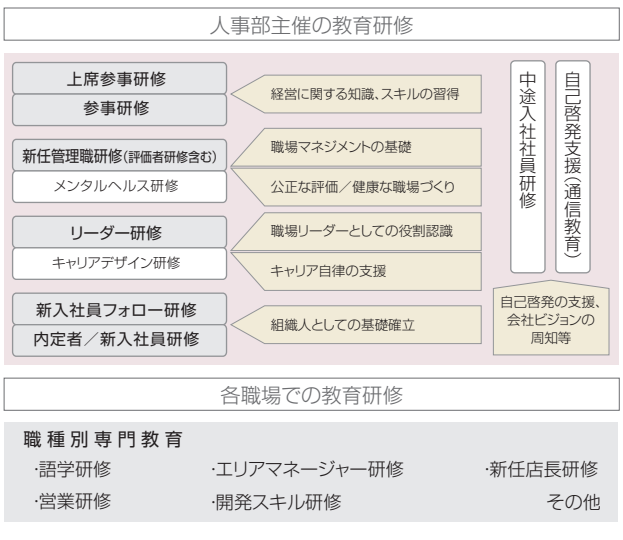
また、社員のキャリア形成支援のために複線型人事制度を導入し、マネジメント職とプロフェッショナル職のコース選択を可能に。そのほかにも社内公募制度を導入するなど、何ごとにも挑戦していこうという企業風土が醸し出されています。

【教育制度】自発的なチャレンジを支援し潜在能力を伸ばす研修

セガでは、社員の資格や職種に応じた教育研修を継続的に行っています。人事部が主催する教育研修では、新入社員研修·昇格時研修·若手社員のキャリアデザイン支援の研修·管理職の公正な評価を支援する評価者研修·健康で安全な職場づくりのためのメンタルヘルス研修などを実施しています。また各職場では、職種に応じた専門教育を実施しています。

さらに、社員の自発的な能力向上に対する取り組みを補助する制度もあります。具体的には、スキルアップにつながる通信教育講座の受講に際して受講料の半額を補助する制度や、受験費用の割引を行う制度などを整備。また社員が自発的に自己啓発を希望する場合は、外部の教育サービス提供者と提携し、社員が適切な教育メニューを受けられるよう努めています。

■セガ 研修制度



【社内コミュニケーション】業務をより円滑に進めるための仕組み

セガでは、社内コミュニケーションを促進させる仕組みとして、イントラネットの整備、目標管理の導入、レクリエーション活動、会議・話し合いの場を設けています。

業務上または生活上の各種相談においては、日常的な職制上の相談に加え、セクシャルハラスメント・パワーハラスメント・人事・キャリア・育児相談窓口や、法律相談、健康相談窓口を社内外に設置しています。また、コンプライアンス推進に関する制度、個人情報保護に関する制度に加え、重要法令などの情報を社員に流す場合には、情報の受け手のスムーズな理解のため、Q&A・諸般定型書式の雛形を定めるなどの整備を進めています。

ダイバーシティ

雇用・社会環境・生活環境の変化に合わせダイバーシティに対応する制度を充実

【採用】公正な選考と入社後のフォロー体制を構築

セガでは、多様な雇用形態があり、従来から性別・国籍等の区分け無く採用をしています。また、高年齢者再雇用についても制度を設け、それぞれの雇用形態の基準に従い採用しています。

入社した社員に対しては、オリエンテーションや導入研修を行うなどスムーズな配属を支援しています。また、正社員においては、入社3ヶ月経過時点で勤務評定・人事面談を行い、配属先でのフォローに活用するほか、以降の採用の参考としています。

【障がい者の雇用】積極的かつ継続的な雇用の促進

セガでは、部門別の障がい者採用計画を策定し積極的な雇用に取り組み、CSR重点推進課題の一つとしても捉え、働きやすい職場づくりを進めています。職場環境としては、障がい者職業生活相談員を各部門に配置すべく推進し、また定期的な面談を実施するほか、ハード面でも車椅子昇降機、階段用手すり等を設置しバックアップ体制を整えると同時に、障がい者雇用に対する社内意識の向上にも努めています。

【ワークライフバランス】仕事と家庭の両立で能力を最大限に発揮

セガでは、社員が仕事と家庭の両立を図ることができるよう、法令を上回る育児休業制度や介護休業制度などを設け支援しています。出産・育児休暇の取得前には、取得者および上長に対し、育児制度や諸手続きについて説明。また、育児相談窓口の設置や、子育て情報を交換できる「子育て広場掲示板」の開設も行っています。これらを含む会社情報は、休業中も閲覧が可能であり、スムーズな職場復帰を実現しています。また、社員の有給休暇取得を促進させるため、計画的な有給休暇の付与を実施しています。

■セガ 育児・介護に関する制度

育児	育児休業制度	子が1歳に達するまで利用可能。 （要件を満たす場合、1歳6ヶ月に達するまで延長可能）
	育児短時間勤務	子が小学校に入学するまで、利用可能。 また、3歳に達するまで、給与控除を行わない。
	子の看護休暇	子が小学校に入学するまで、年間5日利用可能。
介護	介護休業制度	1要介護家族につき連続する3ヶ月の範囲で取得可能。
	介護短時間勤務	1要介護家族につき、通算93日の範囲を限度として、利用可能。

【福利厚生】幸福感や豊かさを感じながら働ける環境を目指して

セガでは、社員がリフレッシュし、仕事への英気を養えるよう、様々な福利厚生制度を用意しています。社員の疲労回復や健康増進を目的とした本社地区でのリラクゼーションルームや、家族の利用も含めたEAP（社員相談サービス）の導入、セガサミーグループ保養所（伊豆高原、軽井沢、小淵沢）の利用を通じ、社員のコミュニケーション促進、組織・チーム力アップや心身の健康増進を図っています。そのほか、年間一定のポイントを付与し、ポイント範囲内で様々な形でのサービスを利用できるセガマイレージ制度（カフェテリア制度）など、社員一人ひとりのニーズに合った福利厚生の提供に努めています。

安全・衛生

より安全に、健やかに働ける環境を目指して

セガでは、定期的な健康診断の実施、人間ドック受診補助、健康に関する専門的な窓口に加え、看護師の常駐および、内科、精神科医の相談が可能な健康管理センターの設置のほか、外部のEAPと連携したカウンセリング体制を構築。防災対策としては、「防災月間」を制定し、防災グッズの配布や訓練の実施のほか、災害発生時には社員の早期安否確認体制を整えています。また、安全運転管理委員会の組織設置・監督や、安全衛生委員会も毎月開催。安全衛生委員会の議事録を含み、このような安全・衛生にかかわる各種情報を社内WEBサイトに掲載し、注意喚起と周知に努めています。

ダイバーシティに対応した採用や長期的に働ける職場整備の推進

株式会社セガ　加畑 雅子

人事部で採用のマネージャーを務めています。当社は採用時も入社後も、新卒・中途の差はまったくありません。社員以外にもアルバイト・派遣など多様な形態で、目標に向かって協力しながら一生懸命に働いています。風通しの良い社風なので、雰囲気はとても明るく、活気に溢れています。セガに興味がある障がい者の方も積極的に採用していますし、それぞれができること、できないことを人事部が把握し、各部署に受け入れ体制の整備を促しています。また、障がい者の職域開発として、リラクゼーションルームの新設や、定期的な個人面談の実施など長期的に働ける職場整備も進めています。

サミー 従業員とともに

CSR憲章 With Employees

社員一人ひとりの創造性とチャレンジ精神がグループ発展の源であり、最大の財産です。
私たちは、社員が持つ限りない可能性を最大限発揮できる企業文化を育み、ともに成長していきます。

CSR推進計画

サミーはグループCSR憲章を受け、CSR推進計画として以下の項目について重点的に実施しています。

- 人財マネジメントポリシーに基づいた仕組みづくり
- 新たな教育体系の検討および構築
- ワークライフバランス支援
- 安全で働きやすい職場環境づくり

サミー 人事関連項目定量データ

男女別採用数	男性	女性	合計
新卒採用数※1	85名	7名	92名
中途採用数※2	128名	14名	142名
社員数	1,150名	129名	1,279名

平均勤続年数	5年5ヶ月
管理職	
管理職数	267名
全社員に占める割合	20.9%
女性管理職	
女性管理職数	3名
全管理職に占める割合	1.1%
有給休暇取得率※2	54.7%
育児休業取得者数※2	7名
労働災害発生件数※2	
通勤災害発生件数	1件
勤務内災害発生件数	4件

※:注記の無い場合2008年3月31日現在
※1:2007年4月1日実績
※2:2007年4月1日～2008年3月31日実績

キャリア形成

社員が自分の力を最大限に発揮できるために報酬制度と公正な評価で、プロ意識を高めていく

【人事制度】成果主義を基本とした人事制度を導入

サミーでは、2001年3月に人事制度を大幅改定。以降、2007年4月までに4回の改定を繰り返し、より社員の貢献意欲に応えるべく内容の充実を図っています。その狙いとするところは、全社員に強いプロ意識を持ってもらうこと。そのため、成果主義に基づいた処遇・報酬システム、および公正な評価体制を整えています。また、プロ意識の醸成という観点から、自分でキャリアを選択できる制度を整備して自主性を引き出したり、マネジメントコースとプロフェッショナルコースを設置して専門性の確立と役割の明確化を図ってきました。

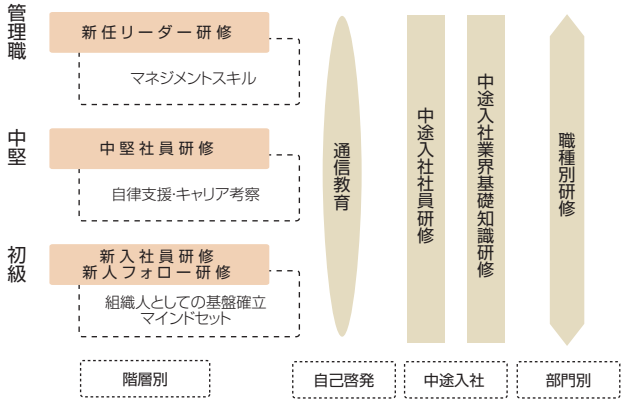
その後も、幅広い人財の活用を目的として、制度を改定しており、今後とも人財マネジメントポリシーに基づいて、社員が個々の能力を最大限に発揮できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

さらに、ストックオプション制度など、社員にインセンティブを付与する諸制度を整備しており、これまでに計8回にわたって社員に株式の付与を行ってきました。また、社員の主体的なキャリア形成のため、社内公募制度を設けており、多くの社員が積極的に利用しています。

【教育制度】責任ある育成、自らチャレンジする人財への能力開発の機会

サミーでは、階層別研修と、職種に応じた部門内研修を行っています。階層別研修では、初級クラスの社員に対し、仕事の進め方や取り組みといった仕事に対するマインドを育てる研修を実施。中堅クラスの社員には、自律の促進や、今後のキャリアを考察するための研修を行っています。管理職には、リーダーとしての能力を養う研修を実施しています。また、他業種からの中途入社者もスムーズに現場に溶け込めるよう、中途入社社員研修を実施しています。

■サミー 研修制度



一方、職種別の研修では、人事部と各本部が連携して研修実施スキームを構築することで、現場に即した教育・研修を実施しています。

【社内コミュニケーション】業務をより円滑に進めるための仕組み

サミーでは、社内コミュニケーションを促進させる仕組みとして、イントラネットの整備などに努めています。また、社内報「Sign」の発行や、各部からの業務等に関連する通知を行っています。また、職場内コミュニケーションを円滑にする取り組みとして、社内同好会制度を設けています。

ワークライフバランス

より快適に働ける制度・環境の実現のために 仕事と家庭の両立支援により能力を最大限に引き出す

【仕事と家庭の両立】法令の基準を上回る支援体制

サミーでは、次世代育成支援対策推進法で規定されている次世代行動計画に基づき、法令で定められた制度の整備に満足することなく、育児短時間勤務制度の拡張、時間外労働削減のための「ノー残業デー」の導入、有給休暇の取得促進に関する制度導入など、働きやすい環境の整備を進めています。その結果、次世代法に基づく基準適合一般事業主として認定されました。

次世代認定マーク
愛称「くるみん」

■サミー 育児・介護に関する制度

育児	育児休業制度	子が1歳に達するまで利用可能。 （要件を満たす場合、最長2歳6ヶ月に達するまで延長可能）
	育児短時間勤務	子が小学校に入学するまで、1日につき最長2時間の勤務時間を短縮可能。
	子の看護休暇	子が小学校に入学するまで、年間5日利用可能。
介護	介護休業制度	1要介護家族につき年間通算93日以内で取得可能。
	介護短時間勤務	1要介護家族につき、連続する93日間を限度として、利用可能。

【福利厚生】専門業者の活用で福利厚生サービスが向上

サミーでは、社員がリフレッシュし、仕事への英気を養えるよう、福利厚生制度の充実に取り組んでいます。2006年10月からは専門業者（リロクラブ）に福利厚生の一部をアウトソーシングし、社員が受ける福利厚生サービスの質の向上、効率化を図っています。施設としては、伊豆高原、小淵沢、軽井沢、苗場、草津に保養所を持ち、社員およびその同行があれば誰でも利用できるようにしています。

ダイバーシティ

より相応しい人財との出会いを求めて 適正な選抜とフォロー体制の構築

【採用】チャレンジ精神に富んだ人財を積極評価

サミーでは、求める人財像を明確にし、適正な採用フローに基づき、面接および適性検査を行い、基準を満たす人財を選定しています。また、サミーの社是は「積極進取」であり、チャレンジ精神に富み、何ごとにも前向きに取り組む姿勢を持った人財を積極的に採用しています。女性の採用にも前向きで、入社後は性別に関わらず公平に評価する人事制度となっています。

【障がい者の雇用】積極的かつ継続的な雇用の促進

サミーでは、障がい者の雇用に関して、年3～4回程度、職業安定所および人材サービス会社主催の障がい者合同面接会へ参加し、継続的な採用活動を行っています。

安全・衛生

より安全に、健やかに働ける環境を目指して 各種の相談窓口を整備

社員の健康と安全を守るため、毎月、安全衛生委員会が開催されています。サミー川越工場においては、社員自らが身の周りにひそむ危険要因をチェックし、ここで指摘された事項を改善していく「6Sパトロール」という活動を行っています。

また、長時間の残業をする社員にはその抑制を働きかけるほか、産業医や看護師による面談・相談の体制も整えています。今後はメンタルヘルス対策として、外部資源を活用した相談体制の整備やセルフケア促進のためのツール導入など、予防的対策と早期対応の実現を図っています。

部下に誇りをもって仕事をさせる管理職が多いことが、サミーの強み

サミー株式会社　寺島 智代

受注システムや精算システムなど、社内向けシステムの開発・保守を担当する部署で、マネージャーとして働いています。サミーは女性でも若手でも、成果を出せばどんどん仕事を任せてくれる社風で、それが会社の活気を生み出していると感じます。私のグループは、部下に社員が8名、契約社員などのスタッフが20名。社内システムは直接売り上げに影響する仕事ではないので、若いスタッフが目標を失わないように、常に仕事の重要性を伝えるよう心がけています。業務の負荷状況、残業の状況はもちろん、少しでも気になることがあれば積極的にコミュニケーションをとるようにしています。仕事がつらくてもモチベーションを保って働ける職場環境をつくるのが、マネージャーの仕事と考えています。

社会とともに（社会貢献）

CSR憲章 With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、芸術・スポーツなどの文化の発展支援への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、社会（社会貢献）については、以下の項目を重点的に実施しています。

- スポーツ、芸術など文化活動支援
- 社会貢献活動の支援
- 社会的責任（寄付活動）
- 事業性を伴う社会貢献活動

セガサミーグループの社会貢献とは

セガサミーグループは、良き「企業市民」として社会に貢献する必要性を強く認識しています。本業のエンタテインメントを通じて豊かな社会の創出に貢献するだけでなく、独自のアイディアにより、スポーツや芸術など様々な活動を幅広く継続的に支援しています。とりわけ将来の豊かな社会の実現を確かなものとするために、次世代の育成に力を入れ、子どもたちに夢と感動をお届けする場を創出しています。また社員一人ひとりの社会貢献意識を高める風土づくりも積極的に行っています。

スポーツ・芸術・文化活動支援

セガサミーらしさを活かして 笑顔に満ちた社会づくりへの貢献

スポーツを通じた次世代育成

セガサミー野球部少年野球教室

セガサミー野球部は、日本の国民的スポーツである野球を活性化するため、裾野を広げ、次世代の選手が夢を追い求められるステージを醸成したいという想いがベースとなり、2005年に創部し2006年1月より本格的に始動しました。

野球部では、春のキャンプ地の宮崎や「長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント」開催地である北海道など、日本全国で少年野球教室を開催しています。2006年以降、のべ1,400名近くの子どもたちに、キャッチボールやバッティング、守備などの指導をするだけでなく、指導者を対象とした講習会を実施するなど積極的に地域とのコミュニケーションを図っています。

少年野球教室の様子

バッティング練習の様子

また、東京新聞と東京中日スポーツ主催の「東京キッズベースボールアカデミー」に特別協賛し、野球部の選手とスタッフが参加しました。川崎や東京の16チーム約120人の子どもたちを対象とした指導や、終了後のグランドのゴミ拾いを参加した子どもたちと実施しました。こうした交流活動を続けることで、国民的スポーツの代表である野球の裾野拡大を支援しています。

終了後のゴミ拾いの様子

「長嶋JAPAN　ドリームプロジェクト2008」

アテネ五輪で日本中に感動を届けた長嶋JAPANのメンバーが集結し、子どもたちに野球の素晴らしさ、楽しさを、“生きた体験”として伝えるイベントを、2005年より特別協賛し応援しています。

イベント当日の様子

選手登場の様子

「少年少女スナッグゴルフ※教室」

当グループ主催「長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント」や各種イベントにおいて、同教室を積極的に開催しています。 ※:P35参照

スナッグゴルフを楽しむ様子

「第1回全国小学生ゴルフ選手権春季大会」

同大会への協賛を通じて、世界に羽ばたく日本のジュニアゴルファー育成を支援しています。

「ジャパンゴルフツアーチャレンジトーナメント」

同大会への特別協賛を通じて、若手ゴルファーに活躍の場を提供しています。2008年度からは「スポニチカップU-23セガサミーオープンゴルフ」にて23歳以下のプロとアマが競い合う新しいゴルフトーナメントを主催しています。

「SEGA SAMMY ATHLETE PROGRAM」

若手アスリートたちへ、競技に集中できる環境を提供するため、トレーニングプログラムを用意し、応援しています。

スポーツ支援

「長嶋茂雄 INVITATIONAL セガサミーカップゴルフトーナメント」

セガサミーグループは、年齢や性別を問わず楽しめるスポーツとしてゴルフを支援しています。ジャパンゴルフツアーの主催を通して、スポーツ振興とザ・ノースカントリーゴルフクラブ※のある北海道千歳市への地域貢献を展開しています。 ※:P35参照

「パラリンピック」

「パラリンピック」はもう一つのオリンピックとして、障がいのあるトップアスリートたちが競い合う世界最高峰の競技大会で、2008年は北京パラリンピック開催年でもあります。「財団法人日本障害者スポーツ協会」への継続的な協賛を通じて、日本における障がい者スポーツ振興に貢献しています。

2008 北京パラリンピック日本選手団発表記者会見の様子

「日本障害者クロスカントリースキーチーム」

NPO法人日本障害者クロスカントリースキー協会を支援しています。本協会選手の太田渉子選手と新田佳浩選手がIPCノルディックスキーワールドカップ各大会において金メダルを取るなど大活躍しています。

芸術

「東京JAZZ2007」

東京国際フォーラムにおいて毎年夏に開催される国内最大級のジャズフェスティバルに特別協賛しています。2007年で6回目を迎えた本イベントを、セガサミーグループは開催当初から継続支援し、東京の新しい文化の発展に寄与し続けています。

© 東京JAZZ2007

パフォーマンス「JUMP」

韓国の伝統武術であるテコンドーとテッキョンを中心とした武術と高難度のアクロバット演技を組み合わせた斬新なパフォーマンス「JUMP」の日本公演に協賛し、舞台芸術の発展に寄与しました。

JUMP© YEGAM Inc

文化

「社団法人企業メセナ協議会」

企業によるメセナ活動（芸術文化支援）の活動の活性化を目的に設立された「社団法人企業メセナ協議会」への寄付を行い、メセナの啓発・普及活動を支援しています。

その他

都立高校「奉仕」の授業への協力

豊島区社会福祉協議会からの依頼を受け、東京都立千早高等学校にて「企業の社会貢献活動」についての授業を行いました。1年生を対象にした必修科目「奉仕」の授業内で、グループの活動紹介をしたほか、社会のためにできることは何かをともに考える時間を提供しました。今後も社会貢献活動の一環として継続して協力していく予定です。

都立高校「奉仕」の授業の様子

社会貢献活動の支援

社員の自発的な活動の活発化のために ボランティア休暇制度などを整備

企業として本業を通じての社会貢献を行うだけでなく、社会を構成する一員である社員一人ひとりが、自発的に社会貢献活動を行える環境づくりも大切であると考えています。

ホールディングスとセガ・サミーでは、社員の社会貢献活動を促進させる、ボランティア休暇制度を導入し、様々な活動時に活用されています。

- ●上級救命講習の指導員ボランティア
- ●高齢者福祉施設の訪問ボランティア／運営サポートボランティア
- ●事業所近隣のごみ拾いボランティア　など

セガ

ユニセフのグリーティングカードの採用

セガでは、欧米の取引先へのグリーティングカードとして、「財団法人日本ユニセフ協会」のカードを採用しており、2007年度には約2,000部の実績がありました。カード・封筒代金の約半分が全世界のユニセフ活動資金となっており、子どもたちの命と健やかな成長を守るために役立てられています。

2007年度　ユニセフ・クリスマスカード　©SEGA

サミー

使用済切手の回収

サミーでは、社会貢献活動の一環として、社員が協力し合って使用済切手の回収に取り組んでいます。本社をはじめ各支店での活動により、累計で1,600g（約10,000枚）の回収実績がありました。回収した切手は、東京都豊島区の社会福祉協議会と連携し、切手収集家の方々の協力を得て換金します。得られた資金をもとに、アジアを中心とする医療に恵まれない地域への医療従事者の派遣が実現されています。また、アジア各国で医療従事者を目指す人々の援助にも役立てられています。

使用済切手回収の全社的展開

社会的責任（寄付活動）

国際社会の一員として豊かな社会の実現のために

永続性のある寄付活動

セガサミーグループが、社会の一員としての責任を果たし、豊かな社会の実現と文化の創造に少しでも貢献するためには、目的が明確でかつ効果を意識した、軸のぶれない持続性のある寄付活動も必要です。

そのため、「グループCSR憲章」および「グループ行動規範」の精神に基づき計画的かつ能動的な寄付活動を実施しています。ガイドラインにおいては対象先の選定、分野の特定、寄付金額水準の妥当性を明確にしています。なお、迅速な対応が要求される災害支援については、少しでも早く罹災者を支援できるよう留意して設計しています。

災害支援

セガサミーグループでは、国際社会の一員であることも強く意識し、国内のみならず世界のあらゆる地域を視野に入れて、災害時における義援金活動などに取り組んでいます。

近年では、以下の災害支援を行いました。

[2007年度]
- ●新潟県中越沖地震災害義援金

[2006年度]
- ●ジャワ島地震災害義援金
- ●大雨被害に伴う義援金［鹿児島県・宮崎県・長野県］

[2005年度]
- ●米国ハリケーン・カトリーナ災害義援金
- ●パキスタン北部地震災害義援金

[2004年度]
- ●新潟県中越地震災害義援金　●スマトラ沖地震義援金

非営利団体への寄付による社会貢献活動

歌手有志によるチャリティショーを通じて難民教育支援などを行っている「じゃがいもの会」、政府の途上国援助（ODA）など国際協力の情報センター機能を担う「財団法人国際協力推進協会」への寄付も行いました。

地域社会活動

セガサミー野球部　防犯パトロール隊

セガサミー野球部は、活動拠点としている千葉県千葉市土気周辺の地域貢献活動の一環として、選手やスタッフによる週に1度の夜警活動をはじめ、周辺地域の安心安全なまちづくりへ協力していきます。

事業性を伴う社会貢献活動

エンタテインメントを通じて
障がい者や高齢者の楽しみを生む活動

良き企業市民として社会に参加し、オリジナリティ溢れるエンタテインメントを通じて夢と感動をご提供するという考えのもと、本業を活かした取り組みでも、社会の公共的な期待に応えていくことができると考えています。

セガ

「ゲームの日」・社会貢献活動に参加

毎年、11月23日の「ゲームの日」に合わせ、その前後に、ゲーム業界団体が主催する社会貢献活動のイベントが全国各地で開催されます。これは、日頃アミューズメント施設を訪れることの少ない、障がいのある方や、児童養護施設の子どもたちのために、アミューズメント施設へのご招待や、高齢者福祉施設や児童養護施設へのゲームの出前サービスを行うものです。セガも、業界団体の会員企業として、このイベントには積極的に協力し、全国各地で、スタッフ派遣・アミューズメント機器や景品の提供を行い、多くの方々に、ゲームを楽しんでいただいています。

サミー

高齢者福祉施設への本社ショールームなどの開放

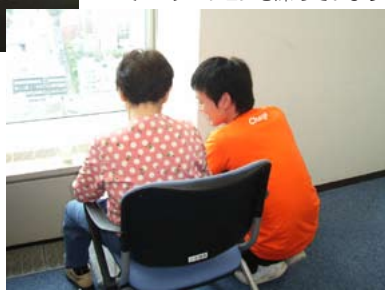
サミー本社では、のべ50回のショールーム開放の活動実績があり、2007年度においては3施設・計252名の方がご利用されています。

【ご利用いただいた高齢者福祉施設】

- ●東電さわやかケアポートとしま 様
- ●東池袋豊寿園 様
- ●長崎第一豊寿園 様

【ご利用人数】　合計252名

社員ボランティアも参加



コミュニケーションも深めています

グループ会社での取り組み

グループとして貢献活動を盛り上げる
様々な取り組みを展開

セガサミーゴルフエンタテインメント株式会社

【事業内容】　ゴルフ場運営（ザ・ノースカントリーゴルフクラブ）

セガサミーカップの入場券収入から、地域の社会福祉協議会にパソコンやレーザープリンターを寄贈したり、地域の教育委員会にスナッグゴルフ※セットを寄贈したほか、地域の新聞社のボランティア基金等にも寄付し、社会貢献活動に役立てています。また上記教育委員会のスナッグゴルフ普及活動にも人員の派遣などで積極的に協力しています。

※：スナッグゴルフ
スナッグ（SNAG）は、Starting New At Golf（ゴルフを始めるために）の頭文字で、ゴルフの基礎的な要素をすべて持ち合わせています。安全性が高く、分かりやすく、マナーやエチケットを学ぶこともでき、広さの限られた場所でも十分に楽しめるため、年少者のゴルフ入門用教材として脚光を浴びています

株式会社オアシスパーク

【事業内容】　ハイウェイオアシスの運営

年1回、地元中学生による飲食・物販店での就業体験を受け入れ、働く喜びや厳しさを学ぶ機会の提供や、公園独自の社会貢献として、緑・土にふれあう機会の少ない幼稚園児に、実際に花植え体験を経験していただき、緑の大切さ、植物とのふれあいを感じる機会も提供しています。また、地域イベントに協賛して会場や人員の提供を行い、地元特産品のPRや観光・交流の促進に貢献しています。

社会貢献の意義を考えながら、高齢者の方々と自然体で接したい

サミー株式会社　岩丸 宝五

本社ショールームの開放に参加していただく高齢者の皆さまの目的は、実に多様です。初体験のパチンコを楽しまれる方、リピーターになる方、ビルの景色を楽しまれる方、出会いの場として活用してくださる方。ショールームの開放が、このように遊技以外にも様々な目的で楽しんでいただけることを大変嬉しく思います。私の仕事は、月1回、豊島区の3つの施設の職員と日程調整をしたり、当日にアテンドして報告書を作成したり、アンケートから活動の向上を考えることなどです。最近は豊島区以外の施設から希望をいただくことも多く、本年度は初めて仙台や札幌で開催するなど、取り組みが全国的な広がりをみせています。様々な部署から、社内ボランティアの応募も活発になってきました。

社会とともに（環境）

CSR憲章 With Society

私たちは、企業市民として社会を構成する一員であることを強く自覚し、本来の事業活動の繁栄を通じて社会に貢献するだけでなく、地球環境保護への取り組みを、積極的かつ自主的に行います。

CSR推進項目

グループCSR推進項目のうち、社会（環境）については、以下の項目を重点的に実施しています。

・環境に関する法規の遵守
・資源・エネルギーの効率的活用
・環境教育
・社会的責任（環境支援）

セガサミーグループと環境

社会を構成する一員として、地球環境問題に真摯に取り組む必要があるのはいうまでもありません。

セガサミーグループでは、2006年度セガ・サミーに関して、生産プロセス・商品・サービスといった事業全体を通じて環境負荷を発生させる可能性の調査を行いました。（環境分野を専門とする第三者調査研究機関に委託）

調査結果によれば、業態の特性上、環境面での深刻なリスクは見られないとのことでしたが、当グループはこの結果に甘んずることなく、環境関連法規の遵守の徹底・資源やエネルギーの効率活用・グリーン調達・社用車の低公害車への切替促進など独自の環境対策を積極的に進めています。

また、社員一人ひとりが、私生活でも環境を意識した行動を取れるよう、環境意識の啓発、醸成、向上にも注力しています。

環境に関する法規の遵守

環境活動に関する基本的パラダイムの確立に向けて

気候変動等の深刻な様相を呈する地球環境問題への対策は急務であり、企業が自発的、積極的に環境保全活動を実施し続けることが最重要課題と考えています。セガサミーグループは、環境法規の遵守は当然のこと、法の要求以上に環境負荷を削減し、環境保全活動を積極的に推進すべく、グループ全体の環境活動に関する基本的パラダイムを以下のように検討しています。

- ●地球温暖化防止への意識づけ
- ●現状把握
- ●環境保全推進項目の抽出
- ●廃棄物の削減
- ●環境教育の実践
- ●3R（リデュース・リユース、リサイクル）の徹底

セガサミーグループは製品の製造から施設の運営まで多岐にわたる事業を展開し、環境関連法規に関しての社員への環境教育を徹底すべく、環境ハンドブック、イントラネット等を通じ、できるところから実践する環境保全活動を推進しています。

資源・エネルギーの効率的活用

資源を後世に残していくために 製品の開発、回収からオフィスまで3Rを徹底

セガ

アミューズメント機器のリサイクル処理

セガのアミューズメント施設では、なるべく長く、また、多くの皆さまにアミューズメント機器をお楽しみいただけるよう、メンテナンスの徹底等の長寿命化を図っています。また、こうした取り組みにかかわらず、廃棄せざるを得ないアミューズメント機器については素材リサイクルに取り組んでいます。具体的には、セガグループの物流を担う株式会社セガ・ロジスティクスサービスにおいて、物流拠点に産業廃棄物中間処理業者を招致し、アミューズメント施設等より回収した使用済みアミューズメント機器の徹底的な素材リサイクルを実施しています。現在、全国でリサイクルシステムを展開し、「埋立ゼロ・単純焼却ゼロ」を達成しています。

またセガグループでは物流資材についても、リターナブル容器による納品の推進や、使用済み物流資材（段ボール、ビニール等）のリサイクルを推進しています。セガグループでは今後、リサイクルの徹底を通じて循環型社会構築に貢献していきます。

省エネルギー製品の開発

セガでは、アミューズメント機器において低消費電力製品を積極的に採用しています。たとえば、従来のCRT（ブラウン管）ディスプレイから、より消費電力の少ない液晶ディスプレイへの切り替えを推進しているほか、蛍光灯やランプのインバータ方式の採用、LED（発光ダイオード）への切り替えを進めています。

トレーディングカードの固形燃料化

セガでは、「古代王者 恐竜キング」などのキッズゲーム用カードを販売しています。

「30枚キャンペーン（重複カード等30枚と、グッズを交換）」にてお客さまよりお送りいただいたカードや、新バージョン発売等のための旧版は、100%固形燃料としてリサイクルされています。

破砕された廃棄カード　　リサイクルされた固形燃料

オフィスでのグリーン購入の推進

セガでは、電子購買システムを活用し、文具やリサイクルトナー等のグリーン購入を進めており、今後も、環境配慮商品の積極的な購入を通じて、地球環境保全に貢献すると同時に、社員の環境意識向上につなげていきます。

グリーン電力証書

グリーン電力とは、マイクロ水力、バイオマス、風力などの、自然エネルギーで発電された電力を指し、環境に優しいクリーンなエネルギーです。

セガでは2005年度より年間100万kWhの「グリーン電力証書」を購入しています。このグリーン電力証書システムは日本自然エネルギー株式会社との契約によるもので、エネルギー使用による環境負荷を減らす取り組みとして行っています。

購入発電の種類は、マイクロ水力・バイオマス※1で、マイクロ水力発電によるグリーン電力証書発行は、セガが日本初の契約企業となります。

※1：セガの契約するバイオマス発電は、下水処理過程で排出される消化ガス（メタンガス）をガスエンジンの燃料として再活用した発電

■セガ グリーン電力証書購入実績（2007年度）

グリーン電力証書購入量	100万kwh（CO_2削減量 約339t）※2
マイクロ水力	50万kwh（CO_2削減量 約170t）※2
バイオマス	50万kwh（CO_2削減量 約170t）※2

※2：CO_2 換算係数は2008年4月環境省発表「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を利用

さらに、行政（横浜市）、市民（横浜市民）、事業者（協賛企業）の3者協働により、自然エネルギーの利用促進や地球温暖化対策事業の一環として、横浜市神奈川区に設置の風力発電機（ハマウィング）を中心として行われる横浜市風力発電事業に賛同し、2007年4月より、Y（ヨコハマ）-グリーンパートナーとして協賛しています。

ハマウィング

グリーン電力証書（マイクロ水力、バイオマス、風力発電）

株式会社 セガ・ロジスティクスサービス
Sega Logistics Service Co., Ltd.

株式会社セガ・ロジスティクスサービスは運送・梱包・保管の物流業務を中心に、アミューズメント機器および設備の運搬・設置から保守メンテナンスサービスまで、アミューズメント施設運営のあらゆる場面をサポートしています。

物流でのリサイクル率は100%を達成
次の目標はさらに上流、開発まで遡る
株式会社セガ・ロジスティクスサービス　金井 洋

当社物流事業部では敷地内に産廃業者を招致し、回収した使用済みアミューズメント機器を、手分解により100%リサイクルしています。産廃業者を招致することで、廃棄品を運搬するコストを抑制し、不法投棄を防止できます。現在、全国5地区（東日本・関東・東海・関西・西日本）すべての事業所で産廃業者との契約を完了し、手分解による100%リサイクルを達成しています。まだゲーム業界としてリサイクルに関する法的な規制がない中で、セガグループのリサイクルシステムは業界を率先する取り組みだと思います。今後は、物流だけでなく開発・設計部門も巻き込み、鉛を含むブラウン管などリサイクルにコストのかかる物質を、開発段階から削減していきたい。それが次の2～3年の大きな目標です。

サミー

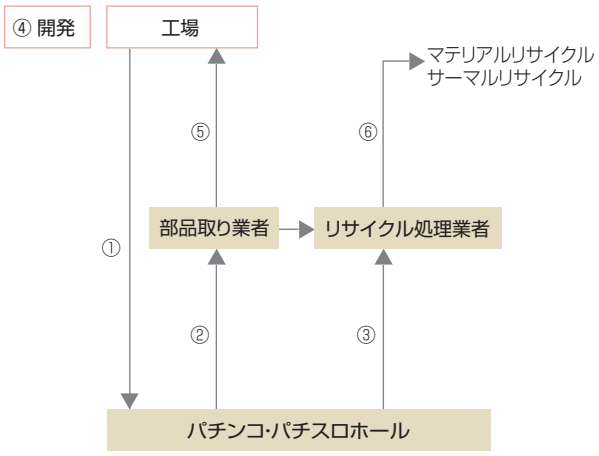
3Rの徹底

パチンコ・パチスロは資源有効利用促進法の対象製品であり、3Rに向けた取り組みが求められています。

2006年、サミーでは、パチンコ・パチスロメーカーとして3Rに積極的に取り組むべく、自社製品の流通フローを整理しました。これを踏まえ、フローの各場面で3Rに貢献する取り組みを進めています。たとえば、パチンコ・パチスロの設計・開発段階では、基板の種類を限定して各製品に共通して使うことができるようにし、余剰部品が発生した場合にもほかの製品に活用できるよう、資源の有効利用に取り組んでいます。また、パチンコ・パチスロ生産段階では、部品調達先に容器包装削減を依頼して廃棄物発生抑制に努めているほか、生産工程で発生する廃棄物のリサイクルや適正処理などに取り組んでいます。

さらに、多くのお客さまを楽しませた後の使用済みパチンコ・パチスロを適正に処理するため、自社台の下取りのほか、業界団体回収システム等を利用した適正なリサイクル処理を行っています。

■サミー 製品の流通フロー



① 新製品
② 自社下取機
③ 業界団体回収システム等からの回収機
④ リデュースに向けた取り組み
⑤ リユース部品
⑥ リサイクル原料
3R

生産拠点（サミー川越工場）での環境配慮

サミー川越工場では原材料の調達や製品出荷にあたり、通い箱を利用して、輸送時の容器包装を削減する取り組みを行っています。また、工場の廃棄紙を利用してつくられたフラワーポットを、工場見学者のおみやげとして提供しており、作業服についてもリサイクル可能な「ecoユニフォーム」を導入して資源の有効活用を図っています。さらに、温暖化防止とやすらぎの場を創出する観点から、屋上庭園を含め、工場緑化を進めています。工場敷地面積16,970㎡に対し、緑化面積は5,433㎡（緑化率32%）で、埼玉県における緑化基準(25%)を大幅に超えています。また、景観面でも優れた建築物で、彩の国さいたま景観賞（埼玉県主催）、都市景観デザイン賞（川越市主催）を受賞しています。

ドットポイントグレージング工法を採用した
日本最大級のガラス建築

フラワーポット

工場屋上庭園
環境との共生、社員の憩いの場を提供

■施設概要

所在地	●埼玉県川越市南台地内
所有者	●サミー株式会社
竣工時期	● 2001 年 4 月
施設の用途	●遊技機（パチンコ・パチスロ）製造出荷工場
敷地面積	● 16,970 ㎡
緑化面積	● 5,433 ㎡（うち屋上緑化 1,105 ㎡、駐車場緑化 250 ㎡、そのほか 4,078 ㎡）

グリーン調達の取り組み

サミーでは、パチンコ・パチスロの生産においてはもちろんのこと、設計・開発の段階でも資源・エネルギーの効率的活用に取り組んでいます。具体的には、環境負荷の少ない原材料を用いるグリーン調達の取り組みとして、鉛フリーはんだ部品、森林認証材、水系接着剤の採用を進めています。

オフィスでの環境配慮

サミーのオフィスでは、全社で「ごみゼロ運動」を展開し、ごみ分別やペーパーレス推進などを実施しています。また、役員を含む全社員のクールビズ・ウォームビズを通じてCO_2の削減、地球温暖化問題への対策に取り組んでいます。

環境教育の実施

グループ一丸となっての活動を目指して ハンドブックなどのツールを作成

セガサミーグループでは、グループ全体で環境保全に取り組めるよう、社員の意識向上を目指し、積極的に環境教育を進めています。CSRハンドブックやイントラネットで環境問題について意識啓発しているだけでなく、教育ツールともなる環境ハンドブックを別途作成しています。環境ハンドブックは、CSR活動により環境に意識を持った社員一人ひとりが、環境に関するより詳細な知識を持ち、環境に配慮した具体的な行動に、公私両面で結びつくように、分かりやすさを重視しています。

環境をテーマとした教育ツール

内容は、大きく3段階にわけ、地球環境問題の基本事項から実践編、そして環境関連法にいたっています。

ステップ1「環境問題の3つのキーワードを理解しよう」

地球温暖化、廃棄物と3R、化学物質という3つのキーワードで環境問題を考えます。

ステップ2「できることからはじめよう」

環境問題の基本を理解すると、環境保全活動としてすぐにでも始められる具体的な取り組みを紹介します。

ステップ3「環境関連法・規制を正しく理解しよう」

セガサミーグループの事業活動を進めていく上で、守らなくてはならない主な環境関連法・規制を紹介しています。

環境問題はきわめて身近な問題であり、一つひとつの行動の積み重ねが非常に大切なことと考えます。社員一人ひとりがすぐにでも実践できるように、手軽なハンドブックとして作成しました。

環境保全活動の支援

外部団体と理念を共有して 基準を満たす外部団体へ寄付

セガサミーグループでは、グループとしての環境保全活動を進めるだけでなく、2004年度の「地球環境大賞」(主催:フジサンケイグループ)への協賛を第一歩として、様々な環境保全活動を支援しています。2006年度から、世界的環境NPOの「WWF※1」や「財団法人日本野鳥の会※2」、「財団法人日本自然保護協会※3」などへ継続的に支援しています。

※1:WWF(世界自然保護基金　World Wide Fund for Nature)
100を超える国々で活動する世界最大の自然保護NGO(非政府組織)。絶滅危機具種の保護や、生物多様性保全にあたっての重要地域の保全、森林や海洋の持続可能な開発の推進などの活動を行う。
※2:財団法人日本野鳥の会
1934年に創立された自然環境保全団体の先駆け。野鳥生息地の保全や絶滅危惧種の保護など、野鳥や自然を守る事業を行う。
※3:財団法人日本自然保護協会
50年以上の歴史を持つ自然保護団体。白神山地のブナ林や石垣島の白保サンゴ礁の保全活動などを行う。

●セガサミーグループにおける環境基礎データ
【対象期間】2007年4月1日～2008年3月31日
【対象施設】
オフィス----------セガ:事業所・営業所(23ヶ所)　サミー:事業所・営業所・流通拠点(43ヶ所)
ホールディングス:本社(1ヶ所)
アミューズメント施設------セガ:直営店(183ヶ所)、ジョイポリス(3ヶ所)、温浴施設(2ヶ所)
生産拠点----------サミー:サミー川越工場(1ヶ所)

	オフィス	アミューズメント施設	生産拠点
エネルギー使用量(電気、都市ガス、LPガス、灯油)※1	206.66TJ	1,385.05TJ	129.31TJ
エネルギー使用に伴うCO_2排出量※2	9,036t-CO_2	63,603t-CO_2	1,080t-CO_2
水使用量※3	51,268m^3	362,632m^3(37,739m^3)	7,943m^3
一般廃棄物排出量(リサイクル量は除く)※4	935t	102,183t	26t
産業廃棄物排出量※4※5	24,931t		367t

※1:オフィス、アミューズメント施設(温浴施設を除く):電気使用量を計上
温浴施設:電気、都市ガス使用量を計上　生産拠点:電気、都市ガス、LPガス、灯油使用量を計上
一部施設についてはエネルギー料金、および床面積からの推計値
電力の熱量換算は一次換算による(8.81MJ/kWh)　TJ(テラジュール)=10^{12}J
※2:CO_2換算係数は2008年4月環境省発表『算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧』を利用
※3:一部施設については水道料金等からの推計値
アミューズメント施設(　)内数値は、アミューズメント施設のうち温浴施設(2ヶ所)における水使用量
※4:一部施設については床面積からの推計値
※5:アミューズメント施設の産業廃棄物は、オフィス(各地の営業所等)にてまとめて排出している箇所が多いため合算して記載

●サミー川越工場における環境配慮の状況
【対象期間】2007年4月1日～2008年3月31日
【対象施設】サミー川越工場

<環境配慮素材の利用>	
木材使用量	359t
うちPEFC※認証木材	232t(65%)
接着剤使用量	3.75t
うち水系接着剤	3.75t(100%)
<地球温暖化防止・やすらぎの場形成>	
工場緑化率	32%

※:森林認証材
PEFC森林認証プログラム(Programmeforthe Endorsement of Forest Certification Schemes)によって「持続可能な森林管理が行われている」と第三者機関に認証された森林より適切に調達された木材。環境破壊的な森林伐採による木材や製品の流通を抑えるための仕組みで、PEFC認証木材を購買することで、持続可能な森林管理の促進に参加している。

第三者意見

石田 寛 氏

プロフィール

日本興業銀行を経て、経済人コー円卓会議日本委員会専務理事、グローバル CRT上級顧問、関西学院大学大学院経営戦略研究科准教授、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科非常勤講師。国内外の企業におけるCSRの浸透普及に積極的に取り組んでいる。

「セガサミーグループの CSR レポート 2008」について

セガサミーグループは、総合エンタテインメント企業として「世界中の人びとに夢と感動を与えること」をテーマに、以下の点についてCSRの取り組みが展開されてきたことは、評価に値するといえるだろう。

1. セガサミーグループではCSR活動の取り組みを、①基盤整備、②活動展開、③発展の3段階に分けて進めている。2007年度、セガサミーグループでは、②の活動展開フェーズに移行するための布石として、CSR委員会や事務局メンバーに向けてCSR自己診断、ダイアログおよびワークショップを実施した。これは、これまでグループ各社が取り組んできた活動内容を確認するとともに、グループ全体としてのCSR活動に関する方向性の確認を行っている。
2. セガサミーグループでのCSR推進体制構築に向けた取り組みとしては、2006年度に策定したCSR推進項目の進捗状況の確認を目的とした調査を実施し、その結果を5つのステークホルダーごとに整理してCSRレポートに記載した。
3. サミーが展開している高齢者福祉を目的としたショールームの開放については、地域の社会福祉協議会との連携を図り、全国7営業拠点のうち4拠点で開催した。
4. 地球環境保護の一環として、セガでは長野県の南相木村との森林の里親契約に基づく一定量のカーボンオフセットの実現に向けた、「セガの森」での森林整備がスタートした。

今後、セガサミーグループが業界のリーディングカンパニーとして、CSR活動を②の活動展開から、③の発展へとシフトしていくためには、以下の点について積極的にチャレンジしていただきたい。

1. 社会の期待や要請に対する感度を高めると同時に、社会のニーズを常に的確に捉え、CSR経営全体に活かすような仕組みを構築するために、CSR活動の推進におけるPDCAサイクルの確立を目指すこと。
2. CSR活動をグループ全体に展開していくために、社員のCSR意識の醸成を目的とした活動をさらに推し進めること。
3. 最近、透明性向上の一環として、事件や事故を含むあらゆる情報を積極的に開示する企業が増え始めている。このような状況のもとで、今後セガサミーグループにおいても社会への積極的な情報開示を行う仕組みを構築すること。
4. ステークホルダーに対して、自社のCSR活動におけるプレゼンスの向上を目的としたダイアログを積極的に実施し、コミュニケーションの促進を図ること。

最後になるが、セガサミーグループは、今後ゆるぎないグループ経営理念に基づいて、夢や感動に満ちた豊かな社会を次世代につなげていくために、独自のCSR活動を展開していくことを期待したい。

経済人コー円卓会議日本委員会　専務理事兼事務局長
関西学院大学大学院　経営戦略研究科准教授
石田　寛

あとがき

「セガサミーグループCSRレポート 2008」をご覧いただき誠にありがとうございました。

CSRレポート第２号の発行に際し、ホールディングスとセガ・サミー各CSR事務局メンバーは、甲論乙駁、口角泡を飛ばしながら、CSRについて考え直し、分かりやすく読みやすい誌面づくりを目指して、幾度も議論を重ねてまいりました。

その過程は、自らの会社の強みや弱みを再認識し、“夢と感動溢れるエンタテインメントをお届けする”ことを経営理念とする私どもができるCSRとは何か、ということを、各々が自らに問いかける良い機会でもありました。

2007年度、各社CSR担当役員によるCSR自己診断やダイアログを開催し、これまでのCSR活動を総括、確認するとともに、今後の方向性についての認識が共有されたことは、大きな前進でした。またいくつかの社会貢献活動等、様々なCSR活動を通じて、社員にCSRの精神が着実に根づいてきたと実感することもできました。

2004年の経営統合以来、私どものCSRは“基盤整備”を終え、ようやく“活動展開”のフェーズに入ったと認識しております。まだまだ未熟な段階ではありますが、第三者意見のご指摘にもありますように、活動推進のPDCAサイクルの確立を目指すとともに、社会のニーズに対して高いアンテナを張りつつ、社員のCSR意識をさらに高めてまいります。そして「できることから・こつこつと・継続する」ことを心がけ、適宜改善を図り、独自のCSR活動を展開していきたいと考えております。

引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

セガサミーホールディングス株式会社
執行役員　グループ内部統制・CSR 推進室長　池田哲司

人々の心を豊かにするエンタテインメントの「力」。

時に美しく、また時に情熱的であるその特有の「力」を、
私たちはバラの花に例えました。
「世界をバラ色にするエンタテインメントを。」
大切な人の誕生日にバラをプレゼントするように、
世界中の一人ひとりに良質なエンタテインメントをお届けし、
それが幸せの糧となることを願っています。

世界をバラ色にするエンタテインメントを。

世の中が変化していくように、
エンタテインメントもまた変化していかなくてはなりません。
未来の人、社会、文化を豊かにしていくことのできる、
本当に良質なエンタテインメントを追求していかなくてはなりません。
そのために、私たちセガサミーグループは、
エンタテインメントと真剣に向き合い、
次々と新しい創造にチャレンジしていくことを約束します。
エンタテインメントで"世界中の人たちに、
バラ色の歓びと夢と感動を届けるために。
これからのセガサミーグループにどうぞご期待ください。

セガサミーホールディングス株式会社
代表取締役会長兼社長 里見 治

Happy Entertainment to you.

SEGA SAMMY GROUP

http://www.segasammy.co.jp

SEGA SAMMY GROUP

セガとサミーがひとつのメビウスの輪となり、そこには無限大の可能性と、
面白さ（Entertainment）にひねりを加えることが表現されています。

お問い合わせ先
セガサミーホールディングス株式会社
グループ内部統制・CSR推進室　CSR担当
〒105-0021
東京都港区東新橋一丁目9番地2号　汐留住友ビル21階
TEL:03-6215-9055 FAX:03-6215-9986
ホールディングスWEBサイト CSRページ
http://www.segasammy.co.jp/japanese/pr/corp/csr.html